

フィールドレポーター

掲 示 板



イチョウウキゴケ
(準絶滅危惧種)

2009年度 第1号(7月) 通巻第55号

蒸し暑い日々が続き、夏休み突入ですね。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

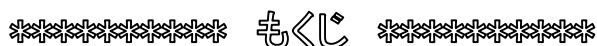
フィールドレポーターのテントウムシ調査についてマスコミに資料提供したところ、たくさんの新聞記事などでとりあげていただきました。連日のように電話での問い合わせがあり、新しくフィールドレポーターに登録希望される方もいて、主担当の楊さんとうれしい悲鳴をあげています。“子どもといっしょにテントウムシを探したい。”“少しでもお役に立てたらうれしい。”“誇りをもって、仲間にも広めたい。”など電話ごとにみなさんの意欲が伝わり、みなさんの力を発揮する場を提供する仕事ができうれしく思っています。

話は変わりますが、今朝、企画展示「骨の記憶 - あなたにきざまれた五億年の時 - 」のオープニングセレモニーがありました。テープカットしたのは、川那部館長と、はしかけグループ「ほねほねくらぶ」の代表と子どもたち。展示会場に所せましと並ぶ骨格標本の中には、ほねほねくらぶの方々が生産したものもたくさんあります。修学旅行や遠足で立ち寄った先の中華街で集めた、美脚三姉妹・「豚足」の標本など、今回の企画展示を楽しみながら支えてくださった様子が見て取れます。

このように、博物館は、単にモノを見に来る場でなく、興味ある者が集い、博物館にあるものを使い、それぞれの得意技を活かして創っていける場なのです。

調査協力以外にも何かやろうと意欲のある方は、ぜひご意見を掲示板へ投稿ください。そして、フィールドレポータースタッフの集う定例会へのご参加もお待ちしております。

(フィールドレポーター担当 中藤 容子)



1	巻頭言	中藤 容子	1 p
2	待ちに待ったイチヤクソウの花が咲いた(韓国通信)	椋島 昭紘	2 p
3	田んぼのシャジクモ	前田 雅子	4 p
4	男性美・高原美の比良連峯	多胡 好武	5 p
5	クサボケを探しています	加固 啓英	6 p
6	アカトンボ(アキアカネ)のふるさと探しに参加しませんか	森 擴之	7 p
7	我が家のテントウムシ事情	加固 啓英	8 p
8	テントウムシが、フィールドレポーターを全国区に	津田 國史	9 p
9	テントウムシは見つかりましたか	FRS	13p
10	編集後記	多胡 好武	14 p

投稿日 2009 年 6 月 13 日

草津市 椋島 昭紘

待ちに待ったイチヤクソウの花が咲いた

韓国 亀尾市に駐在して 1 年 8 ヶ月になりました。こちらの生活にも大分慣れて、休日になると運動のために散歩しています。アパートのある地区から 15 分位歩くと、300m 位高さの山(孝子峰 = ヒョウジャポン)があってそこがホームグラウンドです。昔はおおかた里山だったので、松の種類と落葉広葉樹が主に生えていて、松も落葉針葉樹もあり、冬は落葉して、落葉しない朝鮮黒松、赤松が転々と葉を残している程度で林床に日がさんさんと当たっています。11 月から 3 月までは山に入ると見透しが良いのですが、遠くから見ると少し寒々しい山です。冬はイノシシ注意という膜が張られ、山に入るとイノシシが土を掘った跡や足跡が登山道の脇に良く見られます。まだ、イノシシを見たことはありません。そして真冬の気温は氷点下 10 度位まで冷えて、霜柱、凍結しますので、春まで草も枯れています。

一年前の冬(2008 年春頃)に登山道から外れた所の日当たりの良い林床に、ひときわ濃い緑色、肉厚の玉型の 5cm 程度葉を見つけました。山野草のポケット図鑑を見ると、イチヤクソウらしい。しかし、ほとんど葉が大きくなり、何かに食べられたりして消えたようになっていました。インターネットで調べると毎年は同じところでは咲かないと書いてありました。花を何とかして見てみたいと思い、観察を続けてみました。

観察時期	観察結果
2008 年夏	花は咲かなかった。韓国内の開花は 6 月 ~ 7 月と書いてあった。
2009 年 1 月	別の場所を探したら 図 1 のように茶色の茎に 1 ~ 2 cm の種がついたのを見つけました。昨年の花が咲いた跡の実でした。
2009 年 4 月 5 日	昨年花が咲かなかった場所あたりで、若い葉が出てきました。そして、その中央に花茎が見え、蕾が見えました。
以降ほぼ毎週末 2009 年 4 月 12 日	若い葉、花茎、蕾がだいぶ大きくなりました。 図 2 これ以降はどんどん大きく成長してきた。
2009 年 5 月 30 日	ばんざい！ 待望の白い花が咲きました。花茎が 20 cm 位。 花は 5 から 7 個、花は白でやや下向きに咲きます。 図 3

観察した場所は 右図のように松の林床です。冬は落葉広葉樹が葉を落とし日がよく当たっています。4 月の中旬以降になると落葉樹が葉を茂らせてきて、5 月 30 日木漏れ日の中で花を咲かせました。春先から成長様子を毎週楽しみに山に入りました。十分楽しませていただきました。



花が咲いた
観察場所

図1. 冬



実？ができて
います

図2. 4月12日花芽が出た



図3. 5月30日花が咲いた



図鑑の説明です。
イチヤクソウ科イチヤク
ソウ属、イチヤクソウの
仲間は腐生植物が多く、
これもその仲間とされて
います。
薬草として利用され、
サリチル酸メチルを多く
含んでいる。

(追加です。)

オオミノガは蛾に成長しました

晩秋に山で見つけたオオミノガが 4月になって中から蛾が飛び出しました。



田んぼのシャジクモ

前田 雅子



「田んぼでシャジクモを見ることあるよね!？」と聞かれて返答に困ったのが、事の始まりです。5月、6月はホウネンエビやカイエビを探しに田んぼへ行く機会が多いのですが、シャジクモは湖沼に生えるものと思っていたので、正直なところ、意識して見ていませんでした。

茎に輪生する小枝が車軸(リム)のように見えることから、“シャジクモ(車軸藻)”の名がついたといわれます。田んぼで他に似た植物はないそうなので、見分け方を教えてもらい、シャジクモに注目しつつエビ類の観察をすることにしました。

6月13日、守山市の田んぼで初めて見つけました。茎丈2cm、小枝は2節の小さいものでしたが、すぐにシャジクモと判断できました。隣の田んぼにも生えていて、こちらは茎丈5cm、4節くらいに伸び、しかも稲株間の土を覆いつくすほど繁茂していました。ミドロ類が優占する田、シャジクモばかりの田、雑草も藻類もないきれいな田など、1枚1枚の田んぼで異なるのを改めて感じました。

けれども安定的に水があるのは5月～6月で、中干し(稲の根張りを促すために6月中旬頃に田んぼの水を一旦落とす)が始まれば、枯れるのは必至です。土が乾燥する7月～4月をシャジクモはどのように過ごすのでしょうか。水草が専門の芦谷美奈子学芸員にお尋ねすると、「田んぼに生えるシャジクモについては、分布や生活史がよくわかっていないのが実状です。休眠芽をつくって乾燥に耐えるのか、あるいは毎年用水で運ばれて田んぼに入ってくるのか…。今年生息した田んぼに来年も出るかを確かめるといいですね。」とのことでした。

シャジクモを採取して持ち帰り、グラスに入れて眺めました。節の小枝は3～8本くらいで、決まった本数ではないようです。根のようなものもありますが、藻類ですから根ではないかも知れません。

アクアリウムとしても楽しめそうですし、しばらく育ててみることにしました。



男性美・高原美の比良連峯

大津市 多胡 好武

最近、フィールドレポーターは比良、打見山でアサギマダラのマーキングやアキアカネのマーキング実施で訪れる機会が多くなっています。

(写真はびわこバレーでマーキング準備をしているところ)

私が古本屋で求めた昭和16年(太平洋戦争開戦の年)発行の「近畿の山川」徒歩記 創元社版、比良登山のページで比良連峯が美しく表現されているので紹介いたします。現在の比良と思い出わせてください。



〔山麓より見上げた比良連峯は湖岸に黒々と聳立し、若々しい扇状地を展開して、白々とした水無川をのせ、如何にも荒々しい。一步谷に近づくと谷底を埋めた岩屑を洗ひ、高らかに爽やかな瀬音をたて、流れる溪流見上げれば頂上近く素晴らしい崖崩れが、強く、白く、赤く印象的な風貌を見せ、自然の偉大さを思はせる。表から見た比良は「男性的な」一語に盡きる。

山頂近く蓬萊・打見の邊、高原状の傾斜地を埋めた熊笹原、さては一條の細道を残してあたりを埋めた灌木の密林、つゞじあり、石楠花あり、みな苔蒸して寂び、千古斧を知らず、深山幽谷の感を一層深うさせる。

武奈ヶ嶽を包む立枯れの林は一種の凄壯感を與へずにはおかない。高原美の持つ魅力はたしかに大きい。

之等の特異な風物と共に、鏡の様な琵琶湖の姿、東西南北に展開する山々のたゞずまいは、明るくて朗らかな展望をほしいまゝにさせ、大峯・伊吹等に比べて手近に登れる近畿の最高峯比良登りは、自然が持つ偉大な力をしみじみと味はうことが出来、何か人間的な懐しさを感じさせる。〕また比良山紹介文の一部に、〔有名な近江八景も時代の推移に取り残されて昔の面影を止め中に、比良の暮雪のみは今尚高邁な山容と共に不變の誇をつづけ、東海道の驛路を旅する人々も白雪の雄姿を湖上に映ずる高嶺を仰いでそゞろに詩情を唆られるであらう。〕とあります。 - 原文で掲載しました。 -

武奈ヶ岳へはリフト、ロープウェイが廃止されましたが、徐々に昔の山容が戻ってくることを期待したいですね。若い頃はなんともなかった正面谷からの登山も足腰が弱ってきた今、少々辛いです。入山者が減り、紹介したような美しい山容が次世代に残せればそれも好ではないでしょうか。

クサボケを探しています

投稿日 [20090629]

彦根市 加固 啓英

愛知川の法面の護岸が従来の全面コンクリートブロックの工法から礫・砂・シルト、で固める工法に変わり、野草が覆い始めております。

これは私には心地よく思われるのですが、雨水による崩壊が進み、ウスバカゲロウの幼虫のトラップ兼巣穴の蟻地獄の様な穴も出来初めており、これには人身事故の例もあり、改善が必要に見受けられます。

旧国鉄時代の線路堤には土を固めただけの個所も多かった様に思うのですが、なぜあまり崩壊しなかったのでしょうか。思い出の中の線路堤のかなり広い範囲が、法面を這うように広がり朱色の花を咲かせるクサボケで覆われていたように思います。

これを切り通しや護岸の法面の補強に使えないか、又、強度の低い軽量の屋根の屋上緑化に使えないかの、テストをして見たく思い、クサボケの自生地を探しています。

これを殖やすことは、枝からの挿し木でもシドミとも呼ばれる果実の種子からでも出来ると思います。

この自生地を見かけられましたら、場所を yoshihide.kako@gaia.eonet.ne.jp までお知らせ下さい。



くさぼけ

牧野日本植物図鑑；北隆館(1959)

521-1113 彦根市稲部町 270-8

加固 啓英(かこ よしひで)

Te1&Fax 0749-43-2576

“アカトンボ(アキアカネ)のふるさと探し” に参加しませんか

森 擴之

今年もアカトンボが飛びだしました。

アカトンボの一種、アキアカネは6月下旬に里の田んぼなどでヤゴから成虫になり、梅雨も明けて暑さが厳しくなる7月から8月にかけて、気温の低い近くの山の山頂付近ですごし、秋になると再び里に下りてきて産卵して一生を終えます。

皆さんのお住まいの近くでアカトンボを見つけたら、うしろ羽根に油性マジックで直径5mm程度のマークを付けて(下図参照)、放してください。琵琶湖西岸(南は瀬田川西岸から高島市迄)で見つけたトンボには、左後羽に(下左図)、琵琶湖東岸で見つけたトンボには、右後羽(下右図)にマークを付けて下さい。

アカトンボは羽化間もない今の時期まだ赤くはなく、体も黄色から褐色ですので、見間違えないようにして下さい。

また、羽はまだ弱々しく、破れ易いので、マークを付ける時には、羽を破らないよう十分注意して下さい。



琵琶湖西岸用



琵琶湖東岸用

マーキングしたときは、**お名前、月日、場所、匹数およびトンボの種類**(わかれば)を博物館フィールドレポーターまたは森まで連絡して下さい。

8月下旬には、びわこバレー(蓬莱山山頂)で、マーキングされたトンボの調査を予定しております。皆さんがマーキングされたトンボが、きっと見つかると思います。こちらにも参加して下さい。

お子様たちの「夏休み自由研究」のテーマとしても、ぜひ多数の皆さんのご参加をお願い致します。

連絡先: 琵琶湖博物館フィールドレポーター; freporter@lbn.go.jp

森 擴之

walditm_h@ybb.ne.jp

我が家のテントウムシ事情

投稿日 [20090521]

彦根市 加固 啓英

5月21日、5:45、庭からヤママユの幼虫の食草のコナラの葉を採って部屋に戻り、気が付くと私の手にテントウムシが一頭。黒地に赤い真円形の星が二つ。

この配色デザインとサイズからはナミテントウムシ *Harmonia axyridis* とヒメアカホシテントウムシ *Cyntha caradui* が有力容疑者だが、我が家の庭には後者の餌のクワシロカイガラムシの食草のクワが無いので、これを容疑者から除外、この甲虫は、ほぼナミテントウムシに絞られた。

これを放すべく、庭に出てアブラムシ(?)の居そうな樹を探すがさっぱり見当たらない。

更にコナラの葉を持ち帰ったが、今度はテントウムシ類の終齢幼虫と思われる虫が私の手の上をせかせかと歩き回る性格は親譲りか？アブラムシが見つからないのに動物食の昆虫となると何を餌にして良いかが分からない。昆虫の餌は限られた物のみの事が多そうに思われる。

駄目元でヒラメの煮付けの厨芥を水洗いして与えたところ、頭を突っ込み、動かなくなったので、多分食べているらしい。

? ナミテントウムシ、全長約 6 mm 幅約 5 mm

? 多分ナミテントウムシの幼虫、全長約 7 mm 幅約 5 mm 全身が黒色で両体側がオレンジイエロー、

胸節の3節の境がはっきりと分かる、全体にイガイガ、トゲトゲ。

ルーペで風貌を見ようとするが真っ黒で複眼も見分けられない。

* このメールを書いている間に幼虫が遁走！！

テントウムシが、フィールドレポーターを全国区に

09/07/15 フィールドレポーター・スタッフ 津田 國史

今日、7月15日、正午過ぎのNHK「ひるすぎ日本列島・ふるさと一番」を見られたフィールドレポーター(FR)の皆さんは、どんな思いでこの20分を過ごされたでしょうか。



博物館アトリウムでのFR取材 前列左より 桑原学芸員・若月アナ・森・前田・山崎・高田・タレント酒井美紀



7/4 午後 NHK の説明を聞く
採集していただいている絶妙のタイミングで、NHKの「ふるさと一番」の生放送で取

6月25日 担当学芸員より
(来る7月15日12時後にNHK
が生中継で、FRの「テントウムシ調査」
に関し放送したいとの申し出がありました)
とテントウムシ調査関連の全員に連絡が
あった。この連絡を受けて、7月4日
の定例会で事前打ち合わせをすること
になる。

私達FRが、この夏の調査対象に
テントウムシを採択して、FRのみなさん
に調査資料を届け、

り上げてもらえるとは願ってもないことだ。

7月3日 前畑学芸員より緊急連絡。NHK大津の方が、4日午後に打ち合わせに来られるからと知らせあり。

そこで4日の定例会を朝からに早めて、取材内容、アナウンサーとの対応者などを検討することに。

4日午前中、すでに届いている、サンプル・調査報告票の束を前に、開封は当日用に少し残しておいたほうがいいのでは？とか、交流室の整理もせんと…。テントウムシだけでなく、これまでのFRの調査実績もパネルなどでアピールしよう、過去の調査の紹介はどれに絞るか？など改めて課題が浮上。

パネルなどを引っ張りだして、あれこれ検討がはじまり、時間をどうもたせられるか、沢山な提案が飛び交った。



7 / 14 午後ディレクターと打ち合わせ

7月4日午後 NHKのディレクターが今回の取材内容の説明を始めると、途端に話しが違ふとの思いが全員に広がた。

それはないでえ！FRの活動紹介はどこえいったんや？わしらバス料理の賞味の片棒担ぎのために引っ張り出されるのは嫌やでえ！

テントウムシ調査の様子を撮ってもらえるもんやと思うてたのにい～？そんなんやたらもう出えへんわ！何のためFRが出るのか、FRがでる意味がないやん。そんな思いを籠めて、FRの情報の量を増やしてくれるよう、控え目にやわやわと且つ執拗に抗弁が始まる。

ディレクターは自分達の筋書きに沿って、すんなりいくとの思いであったろうが、思わぬ反撃にたじたじ。

NHKのタイトルは、「みんなで作る びわ湖の博物館」。フィールドレポーターと、



7 / 14 午後リハーサルの説明を聞く

はしかけの、魚の会・ほねほねクラブ・レストランの魚料理であって、レストランのバス料理、魚と戯れる子供の様子などが主眼らしい。

説明を聞きながら、へえ～？フィールドレポーターのテントウムシだけやないの？はしかけ？バス料理？？新しい対象の出現に、FRSには驚きが広がっていた。

4日午後の時点では、時間がとれない。電源コードをこの部屋まで伸ばせ

ない、バス料理と魚で、ほとんど時間いっぱいと言われ諦めモードではあったが、それでも出来るだけFRの内容を紹介してもらえよう、粘っていた。

7月14日午後、閉館前からリハーサルが始まる。立つ位置や設問に答える内容、パネルを持つ高さなど決まり、フロアにマーキングのテープが小さく貼られる。

交流室に戻り、さきのレストランでのバス料理対象のなぞなぞ設定や、FRの説明に再び話しが及び、明日のリハーサルまでに、もう一度コンテを再検討しますとということで終わったが、FRの出席者の気分は重かった。

取材場所が交流室でないことで、室内整理はやらなくて済むが、レストラン・レシピのバス料理を材料に、なぞなぞ作りの要求には、ふだんの調査資料作りとはお門

違いな課題に、誰も何時もの調子が出なかった。

7月15日 朝9時に集まったところへ、NHKのディレクターが来て、開口一番「レストランでのバス料理シーンを変更して、アトリウムでFRを紹介するように変えました」有難い！ 部屋にほっとした空気が流れる。

FRの意向が通り、改めてアトリウムでのリハーサルとなる。



なぞなぞメニュー バスは？

アトリウムのレストラン入口近くに並んだ

FRSに、アナが寄ってきて、FRSに質問するシーンのリハーサルを終わり、交流室で一休みしていたら、先の女性ディレクターが慌てて入って来た。カメラテストの結果は、外景を背にしていたので逆光になり、映像全体の階調と合わないので、場所を変えてもう一度テストとのこと。

再びアトリウムの中央・企画展示室寄りに並び位置を設定。足元のフロアに、女性ディレクターが、バッグから取り出したガムテープを鋏で切り、それを十字形にフロアに貼り付ける。

なんであんな巾広の白テープやら、鋏を持って回ってるんやろと思っていたが、こういう時のためなんだ。ここには酒井さんが立ちます、その一人分を空けて、ここから横に並びますと決まり、やっと本番前のリハーサルが終了。

レストランで意に沿わぬ出演が無くなったことで、FRの気分は和んでいた。

12時過ぎ、アトリウムの窓際椅子にかけて出番を待つ。

私達のFRの記録を残すため、FRで交流員のOさんにシャッターを押してくれるよう依頼、彼女は勤務中で動けないと、代わりの人を探してくれる。



7/15 正午前出番待ち

もう一人、学芸員の八尋さんにもデジカメを渡してお願いした。

12時25分、水族展示でいま進行中の映像を、小さいケータイ画面に額を集めてみんな覗きこむ。

やがてひとあし早く、若月アナがほねほね企画展示室に入る、われわれも指定位置に並ぶ。後ろを水族から移動の桑原学芸員と酒井さんが話しながら、関係者数10名と機材などを従えてほねほね企画展示室に入っていった。

渡されていた進行シートとには、4分で「ほねほね」終りとあり、やがて電源コードを束ねながらスタッフが展示室から出はじめ、続いて桑原学芸員と若月アナがフィールドレポーターを話題にしながら、森さんの右に立ち、若月アナが森さんに話しかけた。

森さんはパネルで、FRについての説明をはじめ。続いて、“いまは何を調査？”との若月アナの問いに、「テントウムシの模様調査をしています、環境によって模様の出方が違うようで、それを調べています…」そしてパネルで、テントウムシにはこのような模様がありますと解説。それをカメラが追う。それに酒井さんが何か話しかけていたが聞き取れなかった。

それでアトリウムでのFRのシーンは終わる。

レストランに移動したカメラはバス料理レシピを試食して、3つのなぞなぞに答えている酒井さんを追っているようで、私達は入口近くでしばらく待機。

スタッフの合図とともに、そっとレストランに入り、みなさんの後ろや左右に並び、ディレクターのキューに合わせてカメラに向かって手をふり続ける。



12時40分、全て終了。若月アナと酒井さんが、ほっとした表情でなにやら話している。私たちFRSも交流室でやっと昼飯となった。

テントウムシは見つかりましたか

フィールドレポーター・スタッフ

- ・ 梅雨明け間近にひかえ、大分気温も高くなりましたが、皆さん、テントウムシは見つかりましたか？

気温があまり高くなると、テントウムシたちも避暑に出かけるのか、なかなか見つからないかも知れませんが、がんばって見つけて下さい。

- ・ **お詫び:**

先日お送りさせて頂きました、テントウムシ調査案内に添付しました図鑑の中で、“ナミテントウ”の名前が“ミナテントウ”となっていました。正しくは、**ナミテントウ**です。お詫び方々、訂正させていただきます。

- ・ **Q & A**

テントウムシ調査に関して、寄せられたご質問について、学芸員の八尋さんから、お答えを頂きました。

Q . テントウムシのオス、メスの見分け方 (安井 加奈恵さん)

A . 交尾の時に、下になっているのがメス、上に乗っかっているのがオスです。交尾の時以外では、腹部の形状でオス、メスを見分けることができます。種類によって、見分ける場所が違い、頭や胸の部分のようがはっきり違っている場合もあります。ナミテントウの場合はたいがいは顔の色で見分けられるようです。全体に白っぽいのがオス、黒か茶色になるのがメスです。しかし、これで 100% 見分けられるわけではないそうです。確実なのは腹部の末端の形状で、オスでは凹んでいますが、メスはなだらかで、中央に少し隆起があります。また、交尾器でも見分けがつかますが、これは外見からは見えないので難しいかもしれません。

以下の大阪市立自然史博物館のホームページにテントウムシの見分け方についての情報が写真付きで掲載されていますので参考にしてください。

<http://www3.mus-nh.city.osaka.jp/scripts/faqbbs.exe?threadN=431>

Q . ナミテントウ、ナミアゲハの”ナミ”で、何の意味ですか？ (安井 加奈恵さん)

A . ナミとは「普通の」という意味です。ごく普通に見られるテントウムシ、アゲハであることからこの名前がついています。

フィールド・レポーター 8月～10月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。
 なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

日 時	内 容	場 所
8月 1日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
8月 22日(土) 10:30～14:00	定例会	博物館交流室
9月 5日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
9月 19日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
10月 3日(土) 13:30～17:00	定例会	博物館交流室
10月 17日(土) 10:30～14:00	定例会	博物館交流室

(おことわり; 上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

〈フィールド・レポーター・スタッフから編集を終えて〉

7月15日のNHK番組“生中継 ふるさと一番！”で「みんなで作る琵琶湖の博物館」が放映され、スタッフ7名が参加しました。

「うおの会」や、「ほねほねくらぶ」のはしかけ活動とともに、私たちのフィールド・レポーター活動も「フィールド・レポーターとは？」や、現在実施している「てんとう虫調査」をスタッフの森さんが説明して下さいました。

生放送と云うことで、前日からの打合せ、当日のリハーサルなど「大変だなあ～！」と思う反面、我々の紹介される時間が約2分。あまりにも短いのでは???

今回の放送を見られた方から、フィールド・レポーター活動への参加希望者があればと願いつつ、我々の思いが充分伝えることが出来なかったことに落胆気味のスタッフ一同でした。

(担当 FRS 多胡 好武)



フィールドレポーター

掲 示 板

2009年度 第2号(9月) 通巻第56号



オオカワチシャ
(特定外来生物)

秋の涼しい時期になってきました。皆様は、いかがお過ごしでしょうか。

琵琶湖博物館では、不定期ではありますが、毎年数回の特別研究セミナーを開催しています。

今回の特別研究セミナーは、第55回琵琶湖博物館特別研究セミナーにあたり、「琵琶湖と中国の湖沼との対話へ向けて」と題して、朱偉(中国河海大学環境工程学院副院長)、辻村茂男(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)に、「中国太湖における富栄養化と生態復元」及び「琵琶湖におけるアオコ発生の変遷」について、ご講演をいただきました。この講演を基に、日本の琵琶湖や中国の太湖において、水質汚染や富栄養化の問題等についても活発な討議ができました。

今後とも「湖沼間の対話」によって湖沼保全問題を解決・改善へ向けて、研究交流をさらに深めていき、また、琵琶湖博物館の展示や研究などの活動にも活かしたいと願っております。

フィールドレポーター担当： 楊 平

***** もくじ *****

1	巻頭言	楊 平	1 p
2	テントウムシ調査 中間結果	スタッフ	2 p
3	筍暮らしで筍遊び	加 固 啓 英	3 p
4	天水ノ利水ノススメ	加 固 啓 英	4 p
5	韓国のラムサール条約登録湿地を訪ねて	椋 島 昭 紘	5 p
6	ミンミンゼミに聞いてみたい	セミ愛 ずる 姫	7 p
7	比良・打見山にトンボを追う	津 田 國 史	8 p
8	テントウムシが撮れない	びわこおおなまけ	9 p
9	フィールドレポーターはいったいどこに生息してるのか？	中 藤 容 子	11 p
10	秀吉のお城で“はたおり”	草 津 家 猫	13 p
11	編集後記		15 p

テントウムシ調査 中間結果

フィールドレポータースタッフ

6月から開始した「テントウムシ調査」は、これまでに28名の皆さんから、60通の報告を頂きました。観察されたテントウムシの総数233頭でした。

調査期間中の天候は、暑かったり、涼しかったりと、不順であったこともあり、なかなかテントウムシを見つけ難かったのか、分布調査、特にナミテントウの斑紋型分布調査としては、データ数が足りません。

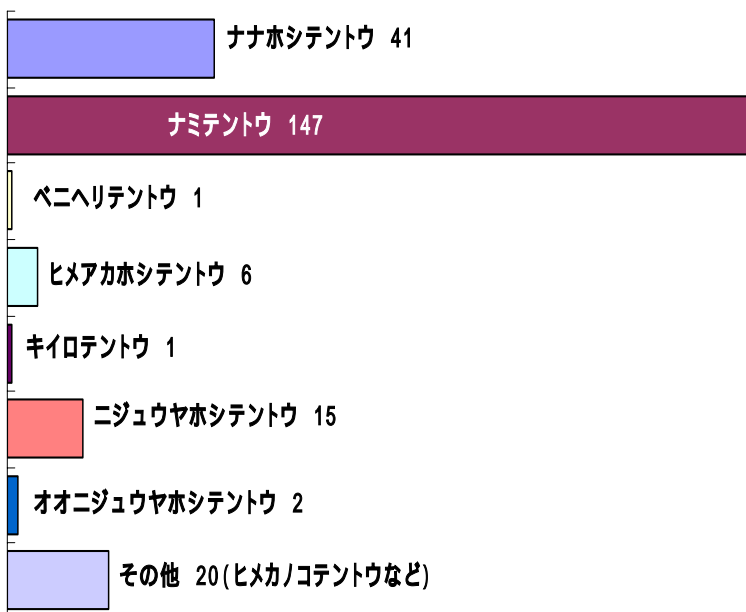
そこで、この調査の終了期間を、12月末日まで延期いたします。

テントウムシは晩秋から冬の間は、風の当たらない陽だまりなどで集団を作って越冬しますので、比較的に見つけやすいと思います。

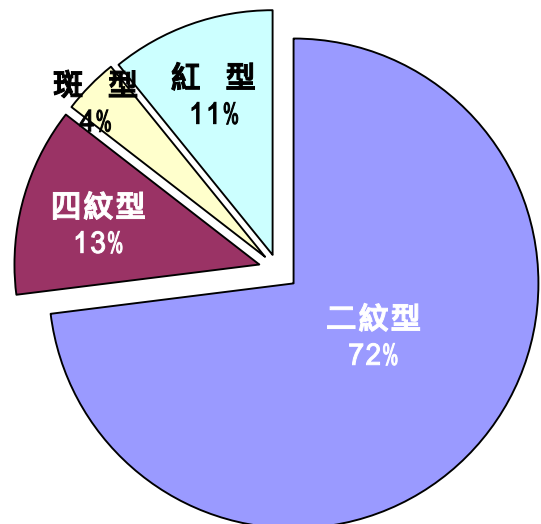
皆様、もう一度観察してください。

以下に、9月末までに返送された調査票の中間集計結果の一部を示します。

見つけたテントウムシの種類と数



ナミテントウの斑紋型比率
(総数 111頭)



筍 暮 ら し で 筍 遊 び

投 稿 日 [2 0 0 9 0 5 1 2]

彦根市 加 固 啓 英

「我が宿のいささむら竹」は黒竹なのですが、雨の後は雨後の筍の様に一面が筍！
筍！！筍！！！！

狭い庭の、犬を連れ出す通路部分でもあり、蹴躓くと簡単に折れてしまいます。

この脆さは単子葉植物の弱点でしょうか、成長した竹や棕櫚などは硬い幹となりますが、バナナ、パイナップル、砂糖黍、等はあるにないくらいに刈り取りが容易な様です。双子葉の[独活の大木]と良い勝負です。折れた筍は柔らかく、生でも食べられますがオーブントースターで丸焼きにして食べています。

筍の皮を注意深く剥いたことが有りますか？

根元の皮を下から一枚一枚、外側から内側に剥き進むと、方向が節毎に反対になっている(上から見て、始が時計廻りなら、その上の節の皮は反時計回り)様です。

皮の先端のとんがり帽子の真下、皮の中心も筍の丁度反対側に配置されている(対生)様です。

筍の皮の広い部分って一体何でしょうか？先端のとんがり帽子が葉だとすると葉柄。だがそれでは枝が無くなってしまふ????

それに幹(?茎?棹)の上部の枝の出た個所から上は円筒に溝が彫られた様になるが、筍にはそれも見当たらない。

子供の頃、梅干を竹の皮で三角に包み、しゃぶって紅色に変色させて遊んだ事は有りませんか？

小皿に入れた「食酢」「梅干の汁」「食塩水」に筍の皮を浸して置いたところ、「食酢」と「梅干の汁」ではピンクになりましたが、「食塩水」では変化なし、でした。

「重曹 = ベーキングパウダー」でも試したかったのですが台所を探しても見つかりませんでした。

この色の変わる物質は何でしょうか？リトマス試験紙の色素は地衣類のリトマス苔からだそうですが、今でも化学合成でなく、天然物から抽出しているのでしょうか？

ご存知の方が居られましたらお教え下さい。

天水ノ利水ノススメ

投稿日 [20090522]

彦根市 加 固 啓 英

私はここ数年の間、屋外で使用するいわゆる雑給水は全て屋根面積約18坪の1/4、約15からの雨水で賄っています。

使っているのは1970年代に会社の廃棄物ケミドラムをマニフェストを正規の手続きで有価物に戻し、1144ccのリーフスプリングの大古車カロラのルーフキャリアーに積んで帰り(多分ABS樹脂製。輸入化学原料用でリターナブル使用の出来ない物で、小さな車の上の2個のドラム缶は相当に危うく見えますが、至って軽い)今世紀に入り天水桶用に配管した物です。

僅かな雨で210リッターが満杯になり、庭池、箱水田2面、睡蓮鉢3個、庭水、長靴等の洗い水、の全てを賄い、日照りが続いても枯渴したことは有りません。

作り方は至って簡単、側壁の上端にオーバーフロー用、下端近くにバルブ配管用の孔を開け、塩ビ配管と蛇口を付けるだけで誰にでも出来ます。

使用する配管を外側から側壁に当て、パイプの太さをペイントマーカー等で写し、その内側をドリルで密な点線状に穴を開け、ナイフ等で削って丸い孔に仕上げます。

雨樋の垂直配管の切り回しがやや面倒で、メーカー毎に規格が異なるらしく、面倒でしたら業者さんをお願いしても安く仕上がります。このパイプの先に古い靴下を履かせると、屋根から流れ落ちる枯れた蘚苔植物のゴミを取り除けます。

もし頑丈で安定した台が作れ(水頭差、ヘッドを作る。)室内への配管が出来ればトイレのフラッシュウォーターも充分賄える筈です。

省資源になった様な満足な気分にはなりますが、彦根市の水道料金(廃水処理料込み)では200リッター当たり50円程度にしか付きません。

しかし学校などではこれを採用する価値は有ると思います。

どなたかやって見ませんか?又、有価処分に廻されるケミドラムか大型のプラスチックの容器が御座いましたら、廃棄手続きをする前に頂けませんか?

* 詳しい作り方等は何時でもお教えします。

Tel & Fax 0749-43-2576

e-mail: yoshihide.kako@gaia.eonet.ne.jp

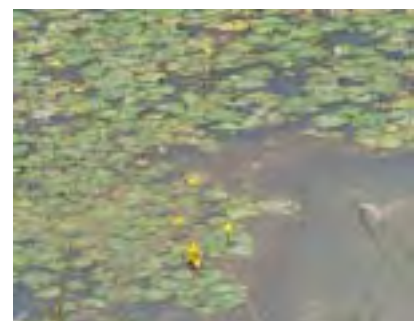
韓国のラムサール条約登録湿地を訪ねて

今年の6月末、韓国の中南部は梅雨入り予報が出たばかりで、雨がほとんど降っていない時期でした。昨年10月、第10回ラムサール条約締結国会議が開催されたときに話題になった、韓国最大の条約登録湿地、牛浦沼と、会場になった昌原市の注南貯水池に出かけてみました。(今年の1月発行、掲示板53号で紹介した場所です。)
ここは冬鳥の渡来地で有名で、冬は多くの方が鳥の見学に見えるところですが、この時期には鳥の姿はまばらで、見学者も少なく、小中学生の団体も1~2組位でした。

牛浦沼の一部風



牛浦沼の見学です。まず、展示館に行きそこで沼の成り立ち、観察できる鳥、植物について説明をしていただきました。(説明展示も、案内も韓国語です。電子辞書を片手に理解できる範囲ですが。。。)興味ある花ではミズアオイの咲く場所が有るそうですが、この時期花は咲いていないので確認できないそうです。館内で見学者用に育てている黄土色の菖蒲が咲いていました。その後、自転車を借りて沼の観察に出かけました。見学用に散策路があり自転車も通行できます。沼は広く、1/3程度を見ただけですが、鳥はサギ、バンがちらほらで、花はアサザの黄色花が(遠景ですが。)目立つ位。知識が無いのですがウキクサ位は判りました。ヒメガマの群生があると聞いたのですが見つけれませんでした。水は周囲の山から流れ込み排水は韓国3大河の洛東河の増減で調節



されているそうです。沼の中心部や周辺には浅瀬があって水草が多く生息しています。この環境が渡り鳥に適していると説明しています。

見学コースに天然記念物指定(1968年5月)の朱鷺の説明があり、子供たちがメモしていました。「1980年代以降は韓国では記録がない。」と記載されていました。

注南貯水池一部風



注南貯水池の見学です。ここも韓国3大河の洛東河の自然湿地で「アシの国」と呼ばれていたところを、農業用水確保、洪水調節目的で1920年に周囲の山からの水を堰き止める形で9kmの堤防で作られた自然と人工の池です。生態学習館、ラムサール文化館で説明を見学しました。展示内容は多くありません。アシ原だったところなので、アシが中央や岸周囲に多く、水の滞留場所には水草浮いています。魚もいます。水深の浅いところが多そうで、サギが水の中を歩きながら餌を探っていました。昔は農家の人がおかずに魚を採っていたそうです。また、水中に鬱蒼と木が生えている沼もあります。このような環境なので冬鳥が多く渡来すると説明してあります。

「ギョギョシ ギョギョシ」とにぎやかにヨシキリが鳴いていました。姿を見たのですが、写真は失敗でした。

鳥観察の収穫も少なく残念でしたが、広大な湿地を見学しながら気分が開放されました。韓国内で自然が保護されている場所始めて訪れてみて、観光に、教育の目的に、皆さん憩いの場所として公開、施設整備されていると感じました。以上です。

湿地の見学コースで撮った写真を添付します。



ミンミンゼミに聞いてみたい

セミ^め愛する姫

2005年にフィールドレポーター調査でセミを調べましたが、それ以後、セミの声に敏感になったというか、セミで夏を感じるようになりました。ニイニイゼミが鳴き始めたからもう夏だなとか、クマゼミが鳴くから今日も暑いぞといった調子です。朝夕のヒグラシは涼しさを運んでくれますし、ツクツクボウシは秋の到来を知らせてくれて、暑い夏を楽しめます。

おもしろいのは、にわか雨で周囲が薄暗く陰ると一斉にヒグラシが鳴き始め、雨が上がって陽がさすとクマゼミやアブラゼミに替わることです。照度や温度を感知しているのでしょうか。また、クマゼミが朝8時ごろから鳴き始めて、11時くらいには静かになるのもおもしろいと思います。

けれどもミンミンゼミはよくわからなくて、正体不明に感じます。我が家は琵琶湖大橋の西にあり、300mほど離れた住宅地裏の里山で鳴く声が一夏に2、3回聞こえてきます。今年は9月1日に、かぼそい声でしばらく鳴いていました。聞いたのはこれきり、つまりミンミンゼミがいるにはいるけど、数は少ないのです。

このミンミンゼミは不思議なことに、毎年お盆の頃に鳴き始めます。昨年フィールドレポーターのアサギマダラ観察会で8月初めに蓬萊山へ行ったとき、山麓でミンミンゼミが活発に鳴くのを聞いてびっくりしました。滋賀県では林に生息することが多いそうですが、山から里に下りてきたのを夏の終わりに聞くから、我が家の初聴は遅いのでしょうか。もしそうなら、平地に生息するミンミンゼミは、早い時期から鳴いているはずですね。琵琶湖の南湖東岸や、彦根辺りの平地にミンミンゼミがいると聞いたことがあります。皆さんの地域ではどんな様子ですか？ 教えていただけるとありがたいです。



比良・打見山にトンボを追う

FRS 津田 國史

時期的にやや遅かったのか、狙う赤トンボは意外に少なかった。(090823)
風に舞うアサギマダラも、こころなしか元気がないようで、夏の盛りの飛翔ではなかった。下界では汗ばむ気温で、これなら期待できるとの思いで、ゴンドラに揺られて頂上駅に着いたのだが、頂上では初秋の気配が感じられ、トンボは頂上駅周辺では全く見られなかった。



前週に植物観察で打見山にきたTさんは、「あの折には沢山飛んでたのに...、もう降りたのやろうか？」とがっかりだった。昨年アサギマダラを採集・マーキングした頂上駅直下の琵琶湖側の平坦部に降りて、やっと数個体を捕獲できた。時折ふわふわと舞うアサギマダラも見かけ、標本用に何頭か捕獲したが、マーキングはしなかった。

午前中はこの平坦部で採集・マーキングして昼飯となる。Tさんがこの時のためにコッヘル・バーナーを持参して、暖かいコーヒーと、お茶の接待は有難かった。下界では冷たいものが欲しかったが、時折吹き上げる風に肌寒い思いをしていたここでは、暖かい飲み物がとても嬉しかった。

太陽が出ないためかトンボの姿が少なく、今日はもう時期遅れで、トンボは来年までお預けと、なかば諦めムードだった。午後、稜線を超えて西側、丹波高原側のシル谷に回ったら、下がるにしたがってトンボの姿が現われ始め、Tさん曰く「頂上からもうここまで降りてきたんやで！」との言に素直にうなずけた、現にシル谷まで下がって、みんな多数の捕獲・マーキングを果たせたのだから。

日差しも回復して暖かくなり、朝方の寒さはなくなり、着込んだものも要らなくなった、トンボたちも飛翔の好期とばかり水辺に



現われはじめたようだ。谷筋で捕虫網を振っていたMさんは、ここで午前中の劣勢を一気に挽回して、シル谷ではトップの成績をあげる活躍ぶりだった。

予定時間がきたのでリフトで頂上駅に戻る。みなさん午後の成績に救われ、ゴンドラの人となって、眼下の琵琶湖を満たされた思いで眺めていた。

テントウムシが撮れない

FRS びわこおおなまけ

テントウムシをなんとかうまく撮ってやろうと苦心しています。
手で採るのはあんがい簡単なのですが、葉(枝)にとまった状態のテントウムシを、その状態で、そっくりデジカメで接写、マクロのフレーム一杯に収めようとする、私には至難の業です。
その要因は2点考えられます。



ピントが合わせにくい。

私のコンパクト・デジカメの接写焦点は20mmで、かなり接近できるはずなのに、それくらい接近すると、対象が小さいのでレンズが捕らえられなくなるのか、ボケてしまいます。



なんとかピントを合わせようと、カメラを前後に動かしてみますが、対象物はボヤけてしまい絵になりません。ある1点で止めて、ズーミング・レバーを操作して合せようとしても、焦点の合う時は意図した画像からは遠く、テントウムシが小さい姿でしか見られません。これでは接写の目的から外れます。

対象が動き、風でも揺れる。

テントウムシはじっとしてくれません。相手は虫ですから、人間の意向などムシして動きまわります。幸い止まってくれたと喜んでいたら、風が葉を揺らせます。殆んどあるかないかの超微風でも、フレームのなかでは大きく揺れ動いています。

止まった！と喜び、シャッターを押しても、コンパクト・安物デジカメの悲哀を味わうのはこの瞬間です。シャッターにタイムラグがあり、ボタンを押しても一瞬後でなければシャッターは作動してくれません。ですので、シャッターが下りるその時点ではもう対象物は揺れているのです。

テントウムシの生態を捉えようと、なんども挑戦していますが、小さいテントウムシを大きく、フレーム一杯にくっきり鮮明に捉えることができずにいます。

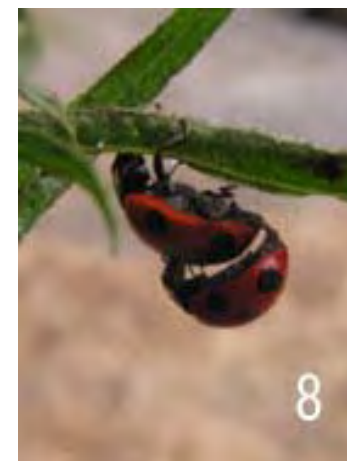
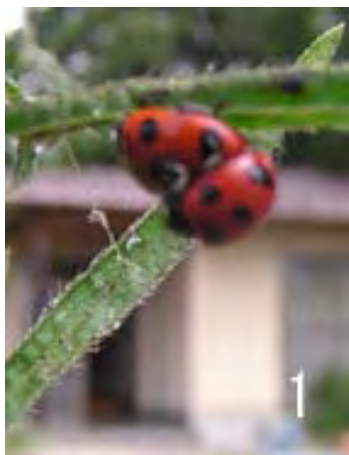
幸いわが家の庭は、テントウムシをはじめ、いろんな虫たちの楽園なようで(ということ

は、アブラムシが多いと言うこと。それは自然が残されていると言えは今様で、聞こえはいいですが、雑草園です)このところ晴天が続いていますので、彼らの姿を見かけぬ日はなく、毎日現われますので有難い存在です。

秋日和の日盛りの中、テントウムシをフレームに収めようとあがいている老人の姿は、道行く人には異様に映っているのでは？

彼と彼女の動きを追ってみたのが下の画像で、ピンボケ・ブレなどなど、未完の画像を御笑覧願います。

テントウムシ調査の期間が延びたようですので、私とテントウムシとのミスマッチも当分続きそうです。



画像はトリミングしていますが、拡大はしていません。

フィールドレポーターはいったいどこに生息してるのか？(笑)

琵琶湖博物館 FR 担当 中藤容子

みなさん、今年度のテントウムシ調査の結果はもう送っていただけましたでしょうか？

テントウムシは身近で調査しやすい・・・と思われたのか、マスコミに資料提供したところ、大きな反響があり、さまざまな新聞や雑誌、はては地域の有線放送でも取り上げられたようです。その結果、フィールドレポーター制度に夢を寄せる熱心な方々が新たにたくさんフィールドレポーターに登録されました。ありがたいことです。

”以前にもタンポポ調査など協力したことがあるんです。”とか、

”フィールドレポーターの印になるものはないのですか？あれば、周りの人にも理解してもらえし、誇りをもって活動に参加できるのですが。”とか、

”自分の住んでいる地域にどれくらいフィールドレポーターはいるのか。もし、いたら一緒にやりたいし、いないなら、仲間を増やしたい。”

などなど、問い合わせの電話口で、思いを語ってくださる方が何人もいらっしゃいました。

フィールドレポーターの印・・・で思い出すのは、スタッフ名札に使っているロゴマークでしょうか。



あと、私も先日知ったのですが、設立当初はフィールドレポーターの「腕章」があったそうです。レポーターをやめるときに返却することになっていたそうですが戻ってきてないのか、私も一つしか見たことがありません。在庫もないし、財政難のこのご時勢、お金をかかるとはできそうにありません。「印」として何かいい提案があったら、お知らせくださいね。

「自分の住んでいるところにフィールドレポーターはいるのか？」という質問はなるほどと思い、前回の定例会で「分布図は作れないかなあ」とつぶやいたら、あっという間にスタッフの森さんが「フィールドレポーター生息分布マップ」を作ってくれました。さすが、生き物の分布マップづくりに慣れていらっしゃるだけあります。ありがとうございます。> 森さま

この図を見ると、レポーターの多くが大津、草津、守山に住んでいて、全くいらっしやらないエリアもたくさんあることがわかります。昨年度の年末年始の食調査をしたときには、都市部の多様性と、湖北、湖東、湖西の地域性が見えてきました。

もし、広くあまねくレポーターがいたら、データのバリエーションも増えて、より面白い結果が見えてきたかもしれません。

このマップをごらんになって、みなさん、どんなことを思われるでしょうか？
ぜひ、みなさんの率直なご意見を伺いたいです。フィールドレポーターの「印」のことも含め、ご意見いただけないでしょうか。調査結果を郵送する博物館宛の封筒にお手紙を同封いただくか、電子メール freporter@lbm.go.jp にメールください。お待ちしております！

フィールドレポーター分布図
(平成21年4月現在：108名)



秀吉のお城で“はたおり”

FRS 草津 家猫

8月29日13:30より長浜城歴史博物館の湖北学講座「湖国をめぐる織りの文化史」の第1回として、琵琶湖博物館の中藤容子学芸員と、はしかけグループ「近江はたおり探検隊」による「湖国に残る織物から学び伝えよう」と題する講演会が開かれました。



わたしは織物や染色、織り糸などに日ごろから興味があり、フィールドレポーターでも昨年と今年、ヤママユの飼育をしましたので、蚕の繭から糸を紡ぎ、その糸で布を織った昔の人の生活に関心を持っていました。長浜城で織物講座が開かれると知って、私たちFRSは秀吉のお城に押しかけ参加させて頂くことにしました。

講演会に参加された長浜城歴史博物館友の会の方は、圧倒的に男性が多く、織物が盛んであった湖北の方々の、地域への熱気を感じました。参加された方の中には琵琶湖博物館にお越しいただいた方も多数おられました。

講演前に、琵琶湖博物館の収蔵民具から復元した織り機を会場に搬入し、組み立てたり会場の準備をお手伝いし、中藤学芸員の講演のあと、近江はたおり探検隊の方の機織実演を見てもらいながら、綿花から糸をつむぐワークショップに移りました。



琵琶湖博物館で、一番最初に育てた綿花を、手回しの古い綿繰り機にかけて、綿と種に分けようとしたが、綿と種がうまく分けられなくて困ったとのこと。

その綿花は洋種の綿花で繊維が長く、和種は繊維が短いのが特徴で、そのため昔の綿繰り機には、昔ながらの和綿しか使えないことが判ったなどの説明を聞き、改めて昔の人の織り用具にかけた知恵と工夫の見事さを知らされました。

皆さん交互に和綿を手に、綿繰り機に挑戦して、和綿との相性に納得されていました。綿繰り機を通して種がなくなり、むくむくと絡んでる綿を、ひとつかみして、用意した弓の弦にからませて、ピーンと軽く何度か弦を弾くと、あら不思議！あんなに絡んでいた綿

が、ふわふわの真綿状に広がりました。この状態で、ゴミなどの不純物を取りのぞき、いよいよ紡ぎにかかります。

ふわふわと広がっている綿を、長い糸にする「つむぎ作業」は簡単なように見えるのに、とてつもなく熟練の技です。

昔の人が親から子、孫へと伝えてきた手わざの妙を教えられました。ふんわり広がった繊維を、細く長い糸にするには「より」をかけるのだそうで、これが「つむぎ」といわれる作業です。手を休めることなく、にこやかに説明しながら紡がれる、近江はたおり探検隊の方の熟練の技に、みなさん見とれていました。

さっそく真似てみましたが、太さが決まらない、すぐ途切れて長い糸にならない。繋がったところが膨らんでしまう。などなど、織り物の原材料からは遠い代物でした。

参加者で綿花の栽培に興味を持たれた方から、「種を分けて欲しい、何時蒔けばいいですか？」と質問がありました。

すかさず中藤さんが「綿花 = コットン、ですから種まきは5月10日頃に蒔くのがよいのです」と即妙の応答が記憶に残りました。

昔の人たちが丹精込めて織り上げた布も展示されていて、触れると手織り木綿のなんともいえない温みと、織った人の穏やかで真摯なまなざしを感じていました。



講演会終了後は、館内展示の豊臣秀吉、石田三成など、長浜ゆかりの戦国の武将たちの資料を見て周り、天守閣からは彼等が駆け巡った湖北の山野と、琵琶湖の眺めを楽しみました。

そのあと、長浜駅から北に徒歩一分の所に在る沖縄料理店に向かい、ミミガー(豚の耳湯引き千切り胡麻和え)、ジーマミー(地豆 = ピーナッツ)豆腐、ゴーヤチャンプルー、ソーキ(骨付き豚肉)そば、ジュージー(肉味噌)おにぎり、紅芋ゴマだんごなど、南国の味覚も堪能した私達の長浜城・夏の陣でした。

追伸 : 湖北学講座に興味のある方は長浜城歴史博物館まで

第2回 10月18日(日)13:30 ~

「浜縮緬をめぐる技術革新と今」 浦島 開 氏

第3回 11月28日(土)13:30 ~

「養蚕業の盛衰と湖北」 鵜飼 均 氏

フィールド・レポーター10月～12月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。

なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

	日 時	内 容	場 所
10月	10日(土)10:30～17:00	JICA交流会&定例会	博物館交流室
	24日(土)10:30～14:00	定例会	博物館交流室
11月	7日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
	21日(土)10:30～14:00	掲示板第57号発行	博物館交流室
12月	5日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
	19日(土)10:30～14:00	定例会	博物館交流室

(おことわり;上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

編集後記 & お知らせ

庭のあちこちからいろんな種類のコーロギの鳴き声が聞かれ、すっかり秋になりました。自然観察にも最適の季節を迎え、フィールドレポーターの皆様には、わくわくした毎日をお過ごしのことの思います。 掲示板第56号をお届けいたします。

毎年行われているJICA活動一環として、海外の博物館関係者が琵琶湖博物館を訪問されます。10月10日には、フィールドレポーターとの交流会が予定されていますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。今回は東欧諸国の方々との交流です。

また、11月21日には掲示板57号の発行を予定しております。手書き原稿で結構ですので、気軽にご投稿をお願いいたします。

その他の行事予定は下記の通りです。

11月 8日(日)10:00～12:30 はしかけ登録講座(博物館セミナー室)

11月28日(土)～12月6日(日) びわ湖・まるエコ・DAY2009(琵琶湖博物館)

フィールドレポーターも出展します。 毎日、交流会も開かれます。

(担当 FRS 森 擴之)



掲 示 板



ミスアオイ(自然観察園で見つけた)

2009 年度 第 3 号(11 月) 通巻第 57 号

朝夕寒冷を覚える季節となりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

11月2日中国・武漢で第13回世界湖沼会議が開かれました。世界湖沼会議は1984年に始まり、日本（滋賀県）をはじめ、アメリカ、ハンガリー、イタリア、アルゼンチン等の国々で開かれていました。中国での二回目の開催となる今回の湖沼会議のテーマは「湖沼生態系の保全：世界の挑戦と中国の取組 資源の節約と環境の友好型社会を築こう」となっています。

11月1日に Opening Ceremony があり、3日に行われた特別イベントの学生セッションでは、日本や中国など5カ国の大学生が、中国・太湖で行った現地調査の結果を発表し、世界の湖沼保全に向けて共通認識や意見交換も行われました。会議は各分科会に分かれ、世界各国の湖沼環境の状況、取り組み等の研究発表が行われ、中国湖沼の保護議題を取り上げ、武漢市の水環境の汚染制御と管理経験も紹介されました。

フィールドレポーター担当：楊 平

***** もくじ *****

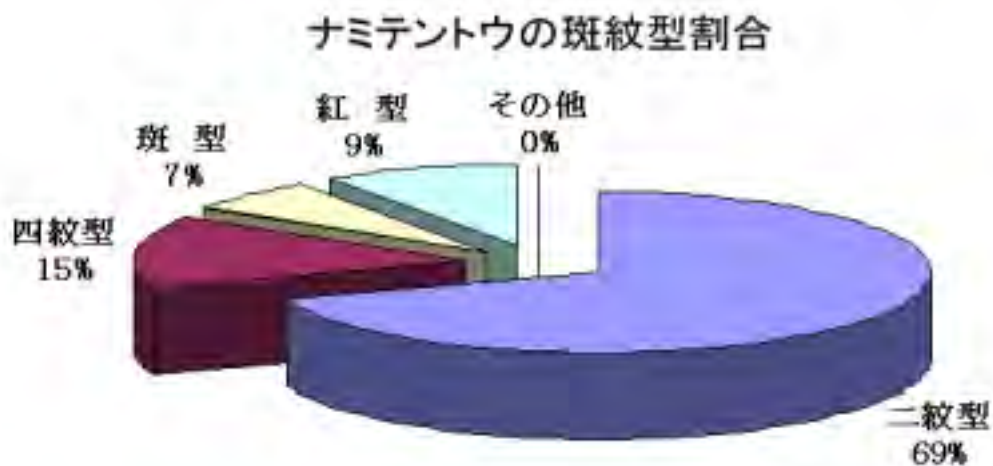
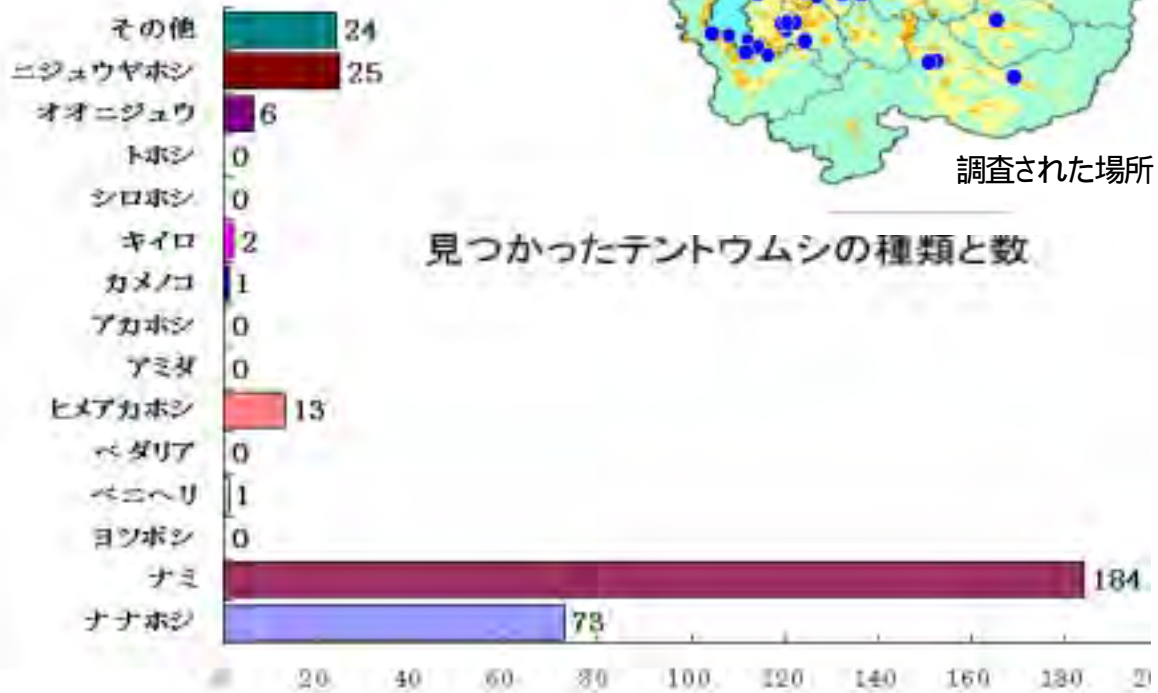
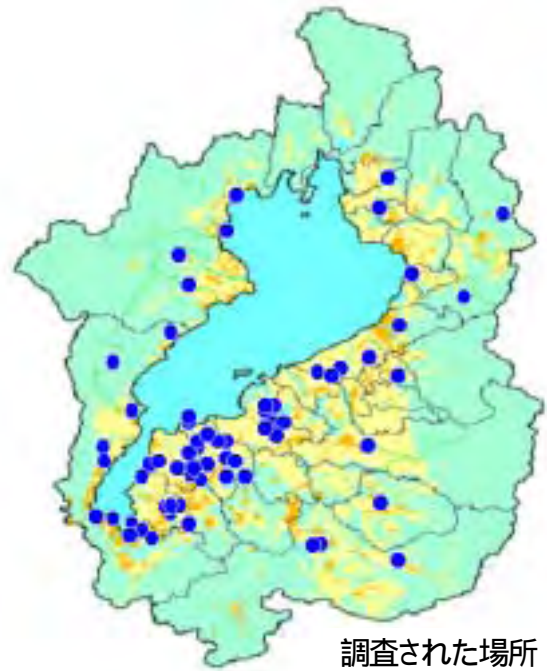
1	巻頭言	楊 平	1 p
2	テントウムシ調査 中間結果	スタッフ	2 p
3	テントウムシ雑感	平井政一	3 p
4	河川の橋を調べませんか?	加国 啓英	4 p
5	レポーター掲示板へ	久保和友	4 p
6	な、なんと近江ことばが標準語に	近江ことばを愛する男	5 p
7	“賞味期限”のありやなしや?	びわこおおなまけ	6, 7 p
8	紀行「ゼンリン資料館をたずねて」	多胡 好武	8, 9 p
9	なんとも厄介! 生物学と和名(その1.)	加国 啓英	10 p
10	「セミ不作」	山犬の主人	11 p
11	道標調査個人編	山犬の主人	12, 13 p
12	各国料理で懇親会	草津家猫	14 p
13	編集後記		15 p

テントウムシ調査 - 中間結果2 -

フィールドレポーター・スタッフ

湖北、湖東地域からの調査報告が少ないようです。

機会がありましたら、ぜひ観察してみてください。



☆ テントウムシ雑感

高島市 平井 政一

我が家は、周りを田んぼに囲まれ、典型的な農村にあります。子供の頃の思い出ですが、毎日自然の中で遊ぶのが常で、そんな中、テントウムシは、カブトムシやトンボ、セミ、ホタルのように採取の対象ではなかったものの、上へ上へと登る動きやかわいい姿に人気があり、当時はどこでも見かけたように記憶しています。

今回は、テントウムシが調査対象なので、野山へ自然観察に出かける機会などに何十年ぶりに探してみたわけですが、昔と比べると、なかなか見つからないというのが率直なところ。「まあ、畑の野菜の葉にはいるはず」と高をくくっていて、休日ごとに畑に行ったものの、時期や天候が悪かったのか、消毒の効果が続いていたのか、自家菜園だけでなく、隣の野菜畑も覗いたが、ほかのムシも含め、テントウムシが見当たらない？という、やや不安の残る調査開始となりました。

年度はじめにされたテーマ選びのアンケートに何気なく「テントウムシはどうか」と答えてしまった手前もあって、今回は特に全力で？調査に取り組もうと、自分なりの課題として2つのポイントを考えました。1つは、何とんでもいろんな色や紋のパターンを持つナミテントウについて、西日本に多いといわれる「2紋型」以外のものを見つけられるかどうか。もう1つは、この夏の時期に、テントウムシが植物の葉っぱや根元以外に、家の壁や雨戸などの人工物に休憩に？やってくるかどうか。そういう視点で、家の周りや畑周辺をあちこち探し回りましたが、もともと休日しか調査ができないうえ、ひと頃、天候がよくなかったこともあり、最終的になんとか数種類は確認できたものの、見つけた絶対数自体がそれほど多くなく、調査としては十分満足できる結果には至りませんでした。

やはり、生きもの全体を見て種類や総数が減っている今日では、テントウムシも例外なく、受難な時代を迎えて、減少の一途を辿ってきているのでしょうか。その点で、「こういう時代だからしかたがない」とは一言で片付けられない問題ですが、やはり、ムシを身近に過ごしてきた我々の世代としては、やはり寂しさを感じざるを得ません。

しかしながら、この調査で観察の機会を得たおかげで、集団で野菜の葉を食い尽くす悪者？のテントウムシがいることやハムシや名前がかわからない幼虫など植物に集まるムシたちが予想以上にたくさんいることなどがわかり、日頃じっくり見ていない小さい昆虫の世界をしっかりと観察することができました。そんなことで、調査を振り返れば、本来の趣旨とはちょっと異なりますが、私にとって調査の意義は十分あったと納得できるもので、何より意外なおもしろさも感じる事ができたと思っています。

何時でも良いのですが河川の橋を調べませんか？

子供たちとの接点があるのですが、川の右岸・左岸の分からない子供も多いようです。

川下に向かって堤に立ち右手側が右岸、左手側が左岸と教えると、まず忘れることは無い様です。

よく知られたことでは有りますが、橋の基点側が平仮名、外界側が漢字で表記されており、幼少時に故郷を離れて、世間での苦労を重ねて読み書きも覚えて帰って来る時には漢字が読めるのだそうです。

年月日の記載は新設なのか架け替えた日なのかも知りたいところです。

どちら側が平仮名か、泡沫大学と高校の間の橋ではどうか？

滋賀県の橋には、小さくとも「・・・大橋」が矢鱈に多く感じます。近く、又は過去に「・・・橋」や「・・・小橋」あったかも知りたいです。

又、必要の感じられない場所に橋が並んでいる所があります。有力者の権力誇示では無いでしょうか？

草津市 久保和友

レポーター掲示板へ

フィールドレポーターが生まれた時からメンバーのひとりです。中藤容子さんの「笑い」の答えとして書いてみます。

発足した時は博物館にはお金があったのか、立派な腕章がありました。現在、スタッフの名札に使われているロゴマークなどは入っていません。いまの嘉田知事が学芸員でした頃ですから、もう昔ですね。

嘉田さんはその後、博物館をおやめになって大学教授として人気があったことは、私の孫娘が講義はいつもやさしく、わかり易かった、試験も かXかの正解の解答を出すのではなく、何か環境問題でもよいから自分の考えを書くようにという、

かXでなくレポート的なものを求められていたのは、むつかしかったが、これからの人生を教えられた。なのに、突如、知事に出る、それもベテランの現役 2 期目の人気知事が相手なのにと。そのあと効果があった「もったいない」の人気の秘密は書きません。

付図の108人の居所のレポーターはわかったので、腕章はなくてもよいじゃないですか。個人秘密で各人の住所など名簿は出せない時代です。毎朝、私は湖畔を散歩しています、テントウムシやタンポポ、カイツブリ、烏丸半島の風車が動かないのを、不思議そうに見ている人もいます。それらの人にフィールドレポーターのひとりとして話しかけてみては。以上、中藤容子さんへのお返事です。

な・な・なんと、“近江ことば”が標準語に!?!?

FRS 近江ことばをこよなく愛する男

2009年11月 日、夕方7時のNHKニュースを見ようとTVのスイッチを入れてみた。

ン? なんやらケツタイ? イントロが「知ったかぶりカイツブリ」。あれ、BBCに入れ間違えたんかいなあ。いやチャウ。野村正育アナウンサーはんがしゃべってはる。NHKに間違えてへん。せやけど、まるっぽ近江ことばやんけ。え、なんやて? 太閤はんが「これからの標準語は大坂の町を作てる人がつこてはる‘近江ことば’にする」て、大号令を出しはったんやて? あっ、後ろの窓から大阪城が見えてんがな。ほたら、野村はんがしゃべってはるのは、天正11年の大坂でのことかいな……

『あんた、寝呆けてんと晩御飯はよお食べ!』妻の声が降ってきた。

ケツタイナ夢物語で失礼しました。実は、今年度のフィールドレポーター第2回調査は“近江ことば”を予定しています。そのため、近江ことばの何をどのように調べたらよいか御教示頂くため、言語学者で滋賀県の方言の権威でいらっしゃる増井金典先生から10月31日にFRS一同でお話を伺いました。

先生のお話では、近江・大津のことばは戦国時代・近世を通じて全国共通語的な役割を果たしていたということです。信長・秀吉は安土城の築城や安土・近江八幡をはじめ、何箇所もの楽市を設営しました。それに動員された農民・土工・石工・商人達は近江ことばを話します。彼らに武士団を加えた集団は、天下一統のために大坂をはじめ全国に派遣されたのです。派遣された先の人々は権力者の意向に従おうとするのが習いです。そして近江ことばが広まっていきました。世の中が落ち着けば人々の交流が多くなります。京都への入口でもある大津は、1日に十数万人もの旅人が往来したそうです。当然、わかりやすく、温かくやわらかいことばは旅人に受け入れられました。現在の東京語と近江ことばには、助詞・助動詞の違いやアクセントなどに違いがあるにせよ、基本的には東(あずま)ことばの基礎は近江ことばだということです。

このほかにも、近江のことばについて様々なお話を伺いました。

長い歴史を持ち、親しまれてきた近江ことばも近頃はあまり聞かれなくなりました。多分、学校教育の充実やマスメディアの発達、核家族化などがその要因となっているのでしょう。しかし、親しい間柄での近江ことばは、今でもたくましく生き残っています。もっともっと近江ことばに全国的市民権を取り戻しましょう。

そのために、今回の調査では、近江ことばを様々な面から調べようと思います。詳細は検討中ですが、年内には皆様方にお知らせします。その折には、宜しくご協力ください。

“賞味期限”のありやなしや？

FRS びわこおおなまけ

クロモジに挿して

守山市の国の史跡「下之郷弥生公園」に、今年の春に植えたクロモジの幼木が6株ある。

この私の背丈ほどのクロモジの枯れ枝に、モズの早贄を見つけた。

クロモジの樹には彼(彼等?)の特別な思いがあるのか、人間は高級楊枝の材にするが、他にも樹高の似た樹はあるのに、なぜかこの樹に早贄が多く、数メートル範囲内の3株のクロモジに8個体の早贄を見つけた。同じような枯れ枝は他にもあるのに他の樹には1個体しかみつからなかった。

低いところに

刺した高さは地上1m.くらいが多く、1m.より高いところにはないのはどうしてか。低いのは地上50cmくらいが最低位だった。後で調べたら積雪との関連を云うのもあって、モズの早贄もカマキリの産卵位置と同じと思っただが、空を飛ぶ鳥が食糧を貯蔵するのに、積雪に左右されることも無いと思っただ。

他の生物に横取りされるのを避けるなら、高い方がより効率的だし、モズは視野の開ける高いところに止まり、辺りを睥睨して獲物を見つけると素早く捕獲して、高い樹の枝に刺すのが彼等の習性だと思っていたが、下之郷弥生公園ではなぜか低いところに刺している。



メニューは昆虫・小動物

刺されている昆虫はバッタ・コオロギ・イナゴなどの昆虫が主で、短い枝に串刺しにされていた。刺している枝は長くても数センチの枝だ。

枯れた枝を選ぶのは、突き刺すのに枝を折りやすいからか、短い枯れ枝が選ばれている。

捕らえたミミズを枝に刺す様子をネットの動画を見た。細いミミズを啜って飛んできたモズが、太めの枝に掴まり、啜ったミミズと変わらぬ太さの枝に、上からかぶせるように何度も何度も挑戦する様を見て、ミミズなら枝の股に置くだけで充分ではないかと思った。モズには確保した獲物は刺し貫けという、父子相伝の秘法がまもられているらしい。唯一カエルが横杭の上で干物になっていたのは例外か？

美味しくなったら

その枝に刺したことを度忘れしたのか、あちこちに刺し置いたので、何所に何を刺したのか思い出せないままになっているのか？それとも、もっと後で必ず食べるのか。

アメリカオオモズは、バッタを1日かそこら貯蔵所に置いてから餌にするそうで、体内に毒をもっているバッタもこれでOKとのこと。なにやら肉を吊るしておいて、美味しくなった頃合を見て調理するシェフのようだ。

魚の一夜干しのように、味が良くなるのかな。それを時まで食べるのか？

(ネットでモズを検索したら「野鳥、モズ、観察報告」で、モズの生態の鮮明で克明な報告がみられた。作者の人柄、姿勢も素晴らしい観察報告の絶品だ)



召し上がるのは

食べるのはストックした本人か？はたまた他の個体が失敬？いや他人の物には手(口)を出さない仁義があるのか無いのか？乾燥干物を本当に食べるのか？これの検証には、串刺しにされた早贄を継続観察は勿論だが、串造りの御仁を確認・同定という至難の課題が待ちうけていて、意欲が萎える。

他の鳥の習性

リスなどの動物が木の実を貯えるのは知っているが、鳥類の備蓄習性が気になり調べてみたところ、木の実を好み、貯える鳥にカケスやキツツキがいた。彼等はドングリを貯蔵する習性があり、キツツキはドングリを貯えるのに、樹に穴を開けてそこに保管すること。おまけに保管中のドングリを乾燥しすぎないように場所を変えたるそうだ。雨や風もおおらかに受け容れ、全て自然の摂理に任せているモズとは雲泥

の差だ。

記憶力は確か

鳥類は飛ぶためには、軽いことが必要条件だから、動物のように冬眠に備えて大量に食べることはない、冬眠もしないからどこかに貯え、それを食べるのだろうか、その場所を記憶している鳥がいるらしい。

目立つ木、倒れた丸太、大きな石、塀の柱など、なんでも目印にするようで、小石などを傍に置いておくこともあるとか。鳥たちの記憶力は、驚くほど長く続き、9ヶ月もたってから種子を掘り出した例も記録されている、(「鳥たちの私生活」デービット・アッテンボロー著、浜口哲一・高橋満彦訳・山と溪谷社2000/7刊)とあるから驚きだ。そんなのはごく稀だろうが、高い樹や、石などを選んで貯蔵する習性は珍しくないようである。

私のみた早贄は

わがモズ君は、そのいずれの遺伝子も持合わせていないようで、今日も木の梢に獲物を刺して、一夜干し、あるいは常夜干しを続けているようである。

それで、賞味期限は、食べたときがそれになっているのかな？

モズに賞味されることなく秋風に曝され揺られ、完全にミイラ化した昆虫は、樹の一部と化して霰や雪を被り、果ては木枯らしに攫われ、粉になって舞い散ることになるのか。



紀行「ゼンリン地図の資料館」を訪ねて

住宅地図、カーナビなどで皆さんも良くご存知の地図を作る会社、「ゼンリン」が北九州小倉に日本地図を完成させた伊能忠敬にスポットをあてた資料館をオープンしており訪ねてみました。

江戸時代の近江地図です。
琵琶湖を中心に現代と比べると面白いですね！

【右地図】

ほんちようずかんこうもく りゅうせん
本朝図鑑綱目(流宣日本図)

貞享4(1687)年

原本 神戸市立博物館所蔵

製作者:石川流宣(1689-1713?)

江戸時代前半のほぼ1世紀にわたり広く流布した地図で、後の版では「日本海山潮陸図」とされた。美しく筆彩され、街道筋と城下・宿駅名、名所、海路や五畿七道の各国別の郡数・石高など表示されている。

当時、鎖国下であったが、市販された日本図などは長崎出島から盛んにヨーロッパに渡っており、日本をヨーロッパ諸国に知らせたとのこと。



【左地図】

改定日本輿地路程全図(赤水日本図)

長久保赤水、木版・刷彩

天保4(1833)年に江戸の須原屋等から出版 初版は安永8(1779)年 故 大迫忍氏 蔵

製作者は伊能忠敬の30年ほど前を生きた水戸藩の地理学者。

伊能忠敬が全国測量の途についた頃には、この地図は定評を得て版を重ねていた。

古くは「行基図」や江戸時代初期の「流宣図」であった日本全図は、図形も内容も格段に正確なものとなり、各地への方位や距離も読み取れるようになった。

図中には、「凡例」として国名・郡名・国界・道路・城下・名所などが描かれた。

特徴としては縮尺が明示されたほか、緯度・経度という語は用いられていないものの、日本地図にその概念を取り入れた初期のものとの事。

この地図は江戸時代後期から明治初年まで、増訂を重ね



広く人々に利用された。

〔下地図〕

江戸時代後期の測量家として著名な伊能忠敬(1745～1818)による。

日本地図の代表的なものの「伊能図」とは、寛政12(1800)年から文化13(1816)年までの17年をかけて、伊能忠敬の測量隊が実測に基づいてその都度製作したもので、忠敬の没後は天文方の手によって最終上呈図「大日本沿海輿地全図(だいにっぽんえんかいよちぜんず)」が完成された。

下地図は琵琶湖を中心とした近江国部分ですがカメラピントのずれで細かい字が判読できませんがご容赦ください。しかし前2枚の地図に比べその正確さに驚かされます。

現在の滋賀県地図とほとんど変わらないようです。湖岸線の変化は明治以降の埋め立てによるものでしょうか？

また西の湖あたりは湖でなく、湾が入り込み安土城につながっているようにみえます。



伊能図で一般的なものは、

大図: 縮尺 36000 分の 1 全国 214 枚

中図: 縮尺 216000 分の 1 全国 8 枚

小図: 縮尺 432000 分の 1 全国 3 枚 の 3 種類

「中図」では、測量の路線に沿う地名と、測線から見える山岳が描かれていて、未測地は空白とされています。至る所に引かれた赤の直線「方位線」は、各地からの主な山岳や島への方位観測結果で、誤差の消去に使われたとのこと。測量路線を見ると、細かな折れ線の連続がみられるが、これが個々の測量地点です。

今日のような交通・科学の発達していない時代、これら赤い測量線を見るだけでも、その地図作りにかけた苦勞や情熱が伝わってきて頭が下がります。

(記事・・・「ゼンリン地図の資料館」パンフレット等引用)

掲示板は黒刷りですが、今回の 3 枚の地図や線など「電子版」のカラーで見られるとその地図の美しさを感じていただけたと思います。

投稿日 [2009・11・18]

名 前 [彦根市 加 固 啓 英]

表 題 [なんとも厄介！生物学と和名(その1.)]

20世紀後半からの生物学以外の自然科学や技術は、それ以前の流れの内の処々に残るグレーな部分や手付かずのブラックボックスの解明や、より緻密・定量的に細部に踏み込んだ研究や研究手段の進歩等は目覚しいが、学問体系の骨組みはそれほど大 変革は見られない様に思われます。

化学では今もアヴォガドロ(1776～1856)の法則は重要ですし、宇宙探査 ロケットなどでもコントロール技術や情報収集以外の、飛行原理そのものはニュートン(1642～1727)力学が健在です。

ところが生物学は基礎・屋台骨・床柱、まで入れ替えられリフォームではなく建替え新築の感が有ります。

世代の異なる人と話をすると、教育を受けた時期が異なると常識が通用しない様に思われてなりません。私は1957年までは生物学の好きな高校生でしたが、諸事情が許さず工学部・工業化学科に進み、30代初めまで中小企業で高分子・塗料を、そのごのコンピュータ(前世紀まではコンピュータ-)の材料や化学的トラブルシューティングや超難問の産廃物処理技術等を生業にしておりましたが、その間の趣味の生物学の知識と情報は講談社ノ「ブルーボックス」や中央公論社の「中央新書」等で仕入れていました。その中で「新しい生物学」が3～5年毎に出版・改定され、以前の物は次々に「昨日の生物学」「元あたらしかった生物学」「古い生物学」「いにしへの生物学」にランクダウンして行くのです。

私が高校を卒業した翌年に日立がレプリカ法の電子顕微鏡を市販発売。それ以前の光学顕微鏡による細胞内小器官などは暗闇の黒牛同然でした。

その後は、生物の系統分類の五界説、DNA解析技術の目覚しい進歩(人ゲノムの解析には数百年かかる筈が数年に)、ミトコンドリアが母方のDNAを受け継ぐこと、多種類の絶対年代測定法の確立と精度の向上、同位元素等のトレーサーの手軽に 応用、遺伝子の直接的組み換えが可能となったこと、等の激震は更に加速しています。

それでもガンマフィールドの偶然の突然変異は今も生かされており病害に強いナシの品種などで話題になっている様です。

機能幕としての細胞膜にもダーウィンが追い出した「神の御意志」の跡に残された「生命の神秘」もかなりクリアーになったように思われます。

なにやら気持ちの悪いのが細胞共進化。万能細胞の研究の進歩は「日進月歩」ならぬ「分進秒歩」状態で新情報に追いつけず、手が付けられない状態です。

* つい最近教育テレビで生きたミトコンドリアの映像を見ました。よく目にする繭形で襞状のクリステの詰まったものでなく、極細きしめん状に見え、あの繭型の内部構造は断面だとの解説でした。

皆様はこんな話に興味はありますか？

ご要望が御座いましたら私が困っている生物関係の表現法、名前、等の問題について次回も続けさせて頂きます。

表題 【セミ不作？】

メッシュコード 5236-4072

投稿日 【091106】

名前【野洲市 山犬の主人】

今年は梅雨明けと立秋の間つまり真夏の期間がほとんどなかった。晩夏すら感じなかったのは私だけだったろうか？

愛犬のリキが今年のゴールデンウィークに瑞牆山、大菩薩嶺、浅間隠山、そして話題の大河ドラマの坂戸山と登山行脚した翌日、私の故郷の里山に登る途中でそれ以上登れなくなった。頂上までバッグの中に入れての登山、そして下山。それ以後朝晩の散歩もヨボヨボとなり、以後は登山引退のやむなきに至った。散歩コースもナマズやセミの観察をしながらとはいかなくなり、掲示板の投稿ネタが愛犬の散歩のおかげだった事が解った。そのリキも先日帰らぬ旅犬となった。

セミ愛する姫の質問にお答えします。ミンミンゼミだけでなくクマゼミ、チッチゼミはもとよりツクツクボウシ、ヒグラシまでも昨年ほどの勢いはなく、不作の年と言えましょう。これは真夏の期間が短かったため地面の温度が上がったように見えても地中の温度が上がらなかつたため出て来なかつたのではないかと思います。

因に毎年の私の定点調査では、今年ミンミンゼミの鳴き声の確認できた地点は湖岸道路の近江八幡市岡山山麓、彦根市薩摩町、彦根市木和田神社の3ヶ所、しかも各地点ともごく天気の良い2・3回だけです。特に近江八幡市白王町付近は今年は聞くことはありませんでした。また4年前の調査の年のような蝉時雨は翌年からは聞かれず今年最低でした。今年の調査は6月下旬から始め8月末まで各地点での7種のセミの初鳴きを確認した日付を表に記入するだけですが、長梅雨だった今年は鳴かない日が多く、しかも自動車走行中に鳴き声を聞くだけの調査なので窓を開けたままの調査ができない日もありました。クマゼミはほとんど午前中しか鳴かないため、バイクでの出勤コースでの4地点だけしか調査できません。

去年の道標調査の続きを個人的に継続しているので、その道中でセミの鳴き声のチェックもしました。ミンミンゼミは湖南市の菩提寺山麓と三雲の草津線沿いと石部南小付近、チッチゼミは金勝山麓の栗東市雨丸と荒張、岩尾山麓の甲賀市甲南町杉谷では盛んに鳴いていました。甲南町では民家の近くでも鳴いています。去年米原市春照では町中でミンミンゼミの蝉時雨を聞きました。セミは山から里に移動するのではなく、山で鳴くミンミンゼミやヒグラシは山で生息し、里に生息するミンミンゼミやヒグラシやツクツクボウシは盛夏をすぎた立秋の頃から地中から這い出て来るのはニイニゼミ、アブラゼミ、クマゼミと住み分けているのだと思います。山中の林では里のセミがないから真夏から鳴くのだと思います。十年近く前の7月に鈴鹿の雨乞岳でガスが出て道に迷い山中で一夜を過ごした日、夜になるまでヒグラシの蝉時雨、しかも里のヒグラシより低音・大音量でした。山中では朝から晩まで鳴いてます。奥伊吹でもそうでした。山中ではアブラゼミやニイニゼミやクマゼミの声は聞きません。それは里のセミだからではないのでしょうか。私は来年は里のミンミンゼミとクマゼミは大発生するのではないかと期待しています。根拠はありませんがそう思わずにはられないのです。今年セミがあまりにおとなしかったし、そして夏が短かったから。

表 題 【道標調査個人編】

メッシュコード 5236-4072

投稿日 【091106】

名前【野洲市 山犬の主人】

昨年の道標調査の続きを個人的に継続している。主に木村本の追跡調査である。木村本の453本のデータをノートに書き写し、少しでも頭に入るようにした。石造りに限定し、近年の観光用道標は年号の無いものは除外するようにしている。昨年9月から今年の10月までで164本に達した。しかしまだそのほとんどは調査票に落としていない。木村本の地図を見ながら番号を塗りつぶしていくうち木村本にない古い道標に巡り逢ったときは思わず「やった！」とガッツポーズをしてしまう。木村本の道標所在地点は大ざっぱなため、番号の付近の道の分岐地点をチェックしている。道路の拡幅や田畑の区画整理のためか見当たらないものもあり難航することもある。車の衝突によりへし折られ跡だけが残っているものも。また風化が進み木村本に書かれている内容が全く読めないものもあったし、逆に書かれていない内容が読み取れたものもあった。まだ近郊の地域がやっとほぼ終盤に入った程度でなかなか進まない。木村本にあるものの所在場所が分からないものを表にしてみた。ご存じの方は詳しい地点をお教え願いたい。なお最近の大合併で新市名ではかえって分かりづらいので旧市町村名で表示しました。

道標所在不明リスト

旧市町村	地区名	木村本	A文	B文	C文	D文
栗東市	出庭	No.449	右善光寺いしべ道	左守山道		
栗東市	荒張	244	右中村ミヤマ梅木道	くさツ道		
甲西町	岩根	254	明治四十年二月	左善水寺道		
甲西町	岩根	255	右いしべ	左水口抜ミち		
甲西町	岩根	258	文化七庚午八月日	左三上妙見道	権主植村	上村藤左エ門
甲西町	夏見	259	昭和十年三月改修	新田道		
甲西町	下田	84	左日野八日市	右石部三雲岩根	左水口山村天神	右八日市八幡
水口町	綾野	265	右ひの			
水口町	城東	266	右八まん	左京道	左日の道	右西京
水口町	貴生川	267	右山上庚申道	左いちいの観世音		
水口町	三大寺	269	右水口	左京		
甲南町	野田	91	右寺庄左深川道	右伊賀道		
甲南町	深川	429	右ひみ谷左水口道			
甲南町	榑谷	271	右深川左ひへ谷	水口百倉	願主藤田寅吉	世話東太
甲南町	榑谷	272	右榑谷水口左田道			
甲南町	上馬杉	276	右いかいせミち	左甲かますきたきへ	右いかうちほ玉たき	左いかゆふね上乃
甲賀町	大原市場	93	右市場	左鳥居の	大原村高野大林為吉	
甲賀町	五反田	448	右和田	左五反田	明治一八年	
甲賀町	油日	281	右あぶらひ明神	左いちい乃土山		
甲賀町	神	283	右いちいの道	左いせ道		
甲賀町	機野	96	右ハヤマ	左ハ土山いせ道		
竜王町	鏡	452	〇御幸山			
竜王町	須恵	322	右みくも	左ひの	明治三十九年十二月	森田氏

道標所在不明リスト

市町村	地区名	木村本	A文	B文	C文	D文
近江八幡	多賀町	No.107	□くはんおんし二り	□長命寺五十丁	□京みち	
近江八幡	出町三丁目	303	右八まん道	左京道		
近江八幡	薬師寺	307	左くわんおん寺二里	右長命寺一里半		
近江八幡	北神田	309	すく長命寺	世話人源居吉太郎		
近江八幡	馬淵町	296	八まんみち			
近江八幡	馬淵町	298	右くわんお	ひた里長命寺		
近江八幡	長福寺	301	右西京	左いせひの八日市		
近江八幡	長田町	109	左浄蔵院観音寺	右八まん長命寺	左八幡停車場	
近江八幡	西往来町	311	東いせひのみち	東よつきくわんをん	八日いちみち	
八日市市	上平木町	433	右いせひの道			
八日市市	糠塚町	321	いせひの	左むさ八まん		
八日市市	不二屋別館	319	右志□□日の	左大もり		
安土町	上豊浦	125	すくくわんおん寺	志みずのはな	左ひ古称	右京八まん長
安土町	常楽寺	126	佐々木大社道是より十九丁	沙沙貴大社道是十九丁	安永八己亥歳季秋月	三井高築建之
安土町	桑実寺	434	是よりくわんおん寺江八丁	多賀大社江□□		
五個荘町	川並	133	左くわんおん寺	右たにくみ	文政六年癸未春三月	福寿海無量
五個荘町	小幡公民館	341	右西京□	左八日□の以勢	すくまち	
彦根市	柳川町	438	左八ま□	右□□は		

木村本: 「近江の道標」木村至宏著、京都新聞社を参考にしました。

フィールドレポーターが参加予定の琵琶湖博物館行事のお知らせ

1、 びわ湖・まるエコ・DAY 2009

開催日 11月28日(土) ~ 12月6日(日)

フィールドレポーターも出展します。毎日交流会も開かれます。

2、 生活実験工房 行事

(1) 11月29日(日) 10時から 収穫祭、薪割り、落ち葉掻き

(2) 12月20日(日) 10時から 餅つき

(3) 12月23日(祝日) 10時から 門松・しめ縄づくり

皆様のご参加お待ちしております。

各国料理で懇親会

草津 家猫



10月10日、今年もジャイカ研修の一環でフィールドレポーターと、はしかけ活動の紹介を兼ねた交流会と懇親会がありました。

あらゆる食が楽しめ、いろんな食材も調達出来る日本で、今回はどんな日本料理？でもてなそうかと献立を思案しました。

近江の特産である赤コンニャクや丁字麩のからし酢味噌あえに、あまり箸がのびなかったこともありました。それで今回は、おでん・ケシ・焼きそば・きんぴら・きんとん・とんぶり・手羽先の照焼き黒七味風味にしました。

研修生のお国料理の色々 = 乾燥肉と紅茶ミルクのスープ(牛水餃子入り)・ココナッツミルクレモンカレー・揚げ茄子ポテト入ごはん等を楽しみました。



フィールド・レポーター11月～2月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。
 なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

	日 時	内 容	場 所
12月	05日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
	19日(土)10:30～14:00	定例会(調査票送付)	博物館交流室
1月	16日(土)10:30～14:00	定例会	博物館交流室
	30日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
2月	6日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
	20日(土)10:30～14:00	定例会、掲示板58号発行	博物館交流室

(おことわり;上表の博物館とは琵琶湖博物館のことでです。)

編集後記&お知らせ

暦の立冬に急かされるように気温がさがり、紅葉が速いスピードで山のほうから平地に駆け下り、湖国の紅葉の名所は見ごろになり、そして皆さんのご近所の紅葉名所でも満喫されていることだと思っております。そして、来月は12月、平成21年の年末を迎えます。

掲示板の57号が皆さんのご協力で発行できました。お届けさせていただきます。

フィールドレポーター参加の琵琶湖博物館行事を前ページでお知らせいたしました。ぜひご参加お待ちしております。そして、ご感想、ご意見を掲示板にご気軽にご投稿お願いいたします。

また、掲示板56号の「フィールドレポーターはいったいどこに生息しているのか？」についてのご意見もお待ちしております。

ご連絡は郵送でも、メール(freporter@lbn.go.jp)でも結構です。

(担当 フィールドレポーター・スタッフ 椋島昭紘)



掲 示 板

2009 年度 第 3 号(02 月) 通巻第 58 号



「近江ことば いまむかし」に思う

彦根の旧城下町に住む人は、おおむねその範囲が「まち」(町、街)と思っているのではないかと、私は勝手に思っています。彦根城を中心にして、北は昔の松原内湖、東は東海道線、南は芹川、西はもちろん琵琶湖がそれぞれのおよその境となります。

その「まち」中に生まれた私は小学校を卒業して、町はずれの二つの小学校をでた人とともに、中学校に通うことになりました。その当時、父兄参観日から帰ってきた母は、「小学校の時と服装も言葉もちよっと違う」と言って帰ってきました。発音ではなく、単語がちよっと違っていたようでした。町屋と農家の言葉の違いだったように思います。

その後、彦根の「まち」中の高校に進学した私は、米原の同級生が「ぼく」という時、私たちとアクセントが逆であることに気がつきました。彦根と米原は駅間の距離にして 6 キロ。間に山も川もない地続きでありながら、「ぼく」という彼らの発音はテレビと同じでした。その言葉の境界線は何に起因するのか、不思議な気がしたまま、途中で何年間抜けたものの、もう半世紀以上彦根に住んでいます。

そんなわけで、今回のフィールドレポーターさんたちによる「近江ことば いまむかし」の成果には、大いに期待しているところです。

一つだけ、私が彦根弁を紹介するときに使うフレーズをご紹介しておきます。

「ほんやはほんほこやほん」(本屋はすぐそこですよ)

「ほん」には「すぐ」という意味と「だ」という強調の意味があります。

また「ほこ」は「そこ」。

琵琶湖博物館 上席総括学芸員 用田政晴

***** もくじ *****

1	巻頭言「近江ことば いまむかし」に思う	用田 政晴	1p
2	「近江ことば いまむかし」調査 中間結果	スタッフ	2p
3	テントウムシ調査雑記	古谷 善彦	4p
4	テントウムシに関する Q&A	京 美季男	5p
5	捕まえられたタイガーサラマンダーだった！	池之内陽多	6p
6	春はもうすぐ、タンポポ調査2010が始まります	椋島 昭紘	7p
7	滋賀県のタンポポ調査 2010・西日本・予備調査結果	布谷 和夫	8p
8	法の盲点み～つけた、なんとも厄介！生物学と和名	加国 啓英	10p
9	紀行「ガリ版伝承館」を訪ねて	多胡 好武	12p
10	メジロが知らせてくれた	おおなまけ	14p
11	編集後記		15p

2009 年度 第2回調査 “近江ことば いまむかし 調査”を終えて

FRS 村上靖昭

今回の調査にあたり、大変多くの方々にご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。マスコミへの広報などの事情により、当初の回答締切を約2週間繰り延べ、2月15日まで延長しました。お寄せいただいた回答は、2月16日到着分を含め378人にも及びました。この人数は、フィールドレポーター調査始まって以来の数であり、現在フィールドレポーターに登録されている人数の数倍に相当するものです。言い方を変えれば、それだけフィールドレポーターの方々のご尽力で、多くのお知り合いに声をかけていただいた賜物であると思います。ありがとうございました。また、それだけ県民の皆様にとって、関心の高い課題であったかと思えます。

調査の目的は、標題の“いまむかし”にあるように、これまで慣れ親しみ使われてきた近江のことばを近頃使う人が少なくなっているように感じるが、実際はどうなのか、できるだけ多くの方々にお聞きして、その実態を明らかにしようとするものです。また、その中で表れてくる結果と諸般の社会事象を照合し、使用頻度が減少している要因を突き止め、近江のことばを守り続けていけるような糸口が見出せれば、との希望を持って実施いたしました。

一口に近江ことばといっても、ことば数だけでも「滋賀県方言語彙・用例辞典」(増井金典、2000)に収録されているものでも約1万語あり、それにアクセントやイントネーションの違いを加えると膨大なものとなります。琵琶湖をはさんで東・西・南・北そして甲賀地方では大きく違います。京都に近い湖南地方は必然的に京ことばに近く、湖西・湖東へと離れるにしたがって京ことばは薄れ、若狭や美濃地方の影響をうけるようになり、甲賀地方は伊賀の、湖北地方になれば美濃・若狭の影響が強く表れています。さらに同じ地方でも旧郡で、旧村で、大字・小字でも違っているようです。これには交通事情による地理的・地勢的な隔たりばかりでなく、社会的集団としての職種や職歴、地位や婚姻関係なども影響していると考えられています。

逆に、近江のことばが京阪に、全国に広がっているものも数多くあります。「滋賀ことば語源辞典」(増井金典、2001)によれば、「行商、アキナイ、カウ、ミセ、タナ」などは近江商人が広めたものでしょうし、戦国・豊織時代から江戸時代にかけて築城や陣地作り、街づくりに動員された近江の下級武士や工人のことば「弁当、道普請」などは全国で普通に使われ、「黒鍬、助郷」なども彼らのことばです。

調査にあたり、おびただしくある近江ことばの中から、どのことばを調査対象とするかについて、フィールドレポータースタッフ(FRS)で協議し、まず特徴的と思われる約200語を先述の増井先生の著書から抽出し、その中から、難解であっても「黒鍬、助郷」のように全国的に通用することば、および、関西弁として、関西人には通用することばを取り除きました。全国的に通用するかどうかは、広辞苑第5版(岩波書店)、大辞林(三省堂)、新明解国語辞典(三省堂)、パーソナル国語辞典(学研)の全てに掲載されているかどうかで判断し、関西弁についてはFRSの独断で決めました。さらに、それらのことばをFRSと琵琶湖博物館関係者で予備調査し、最終的に、設問1)に50語、設問2)に48語を選び出しました。

こうした過程で調査対象としたことばに対し、アンケートで「河内・大和と似通ったことばがあ

ると感じていたが、今回の調査ではそういう面が意図的に外されている」とか「農村の使用例や特殊な用語が中心であり、商人・職人を含めて町屋の使用例も比べたほうがいい」といったご指摘も受けました。確かにそのとおりです。しかし、今回の調査の主要目的は近江ことばの使われ方であり、近江ことばとして特定されるものは、特定の地域・人々でしか使われていないのかどうか、を調べようとしているものです。また、近隣府県との関連については、設問 2)にて、その一部ではありますが実施していますし、町屋で使われている方言の多くは、近江独自のことばではなく、京ことばや関西弁の範疇に入ると判断し、調査対象からは外しました。

設問 1)では、近江ことばの使用・認知度を、設問 2)では、同義語であるそれぞれのことばが日常会話の中でどのような割合で使われているか、また、共通語や近隣府県、他地域のことばがどのような割合で浸み込んでいるかを調べようとしているものです。ところが、何人かの方は、ご自分がよく使っている(と思われる)ことばにのみ ○ または ◎ をつけて他は無記入とされ、さらに、近江ことばを衰退させる最大の悪玉(?)としての共通語の欄(それぞれの語群の最上段)を全て無記入とされている方が数多くありました。共通語の使用頻度が不明であれば、近江ことばとの共生関係や、近江ことばを駆逐しようとしているかどうかの戦況が分かりません。調査票作成にあたって、人間工学的見地からすれば、不適当な位置に回答例を示したことを深く反省しています。

方言域・区画についてもいくつかのご質問やご意見を頂きました。先にも述べましたように、それぞれの集落ごとのことばは微妙に異なっています。行政区画や河川などで明確な境界線を引くことに無理があるのは承知の上、増井先生の著書や地元の方の意見を参考にして、便宜上区画しました。過誤につきましてはお許しください。

皆様方から寄せられた回答の解析はこれからの作業となりますが、一つ一つのことばについて、また、事物の呼称、動作、態様、音声変化などに分類した上で、使っているのか、それとも使っていないのか、知っているのか知らないのかなどを分析していこうと思っています。さらに、急激な社会変化に伴う年齢別での差異、男ことば女ことばに代表される男女別差異、日常生活を営む現住地では、言語生活に大きく影響する居住歴では、社会生活に欠かせない職歴では等々、それぞれがどのような傾向にあるのかを探っていこうと思っています。その中で、もし、近江ことばを回復し、守り続けていけるようなヒントが得られれば、是非皆様方に働きかけていこうと念じております。

今回、回答を寄せて頂いた方の内訳は下記のとおりです。(2月16日現在)

8歳 1名、10代 10名、20代 13名、30代 28名、40代 57名、50代 59名、60代 93名
70代 57名、80代 26名、91歳 1名、不詳 33名 男性 152名、女性 196名、不詳 30名
東部 81名、西部 85名、南部 114名、北部 44名、南東部 53名、県外 1名 県外出身
62名

これからも回答が届くかと思いますが、可能な限り集計に加えていきます。

最後となりましたが、多くの方々から、自分の地域では「このようなことばが使われている」として、たくさんの近江ことばの例を示してくださいましたこと、厚く御礼申し上げます。この調査のまとめや今後の調査の参考資料として活用させていただきます。ありがとうございました。

表 題【テントウムシ調査雑記】

投稿日【091207】

名前【草津市 古谷 善彦】

「テントウムシを調べましょう」が2009年度第1回調査テーマとして6月1日から始まりましたが、意識はしていたものの実際には思うほどの行動に至らないまま、長かった調査期間にも締切が迫って来ました。

5回くらいはテントウムシと対面することが出来ましたので、せめてその一部でも報告しておきたいと考えていました。

当初はなかなか発見出来なかったのが、あるとき友人から「畑に行けばいくらでもいるで～」と教えられ、仲間の畑を訪れたものの上辺からでは確認できず、別の人から「ダイコンやハクサイの葉の裏を見てみ～」とのアドバイスで葉の裏を見ると??居る!じっとして居る!でも撮りにくい。

天気がよければ葉の表面を機敏に動き回るテントウムシに、デジカメのモードを変えてもシャッター速度が付いて来ない、ピントが合わない、シャッターを押しても、押しても肝心の対象が入っていない、残念!!

悔しいなーとは思いますが、高齢になると悟りが開けて?一寸の虫でも殺生することは理由云々に関わらず出来兼ねる心境になっているこの頃です。

ですから、標本採取や静止画を撮ることが甚だ困難なのであります。

でも、ピンボケでも出来のよくない画像でも、保存してある折角の調査資料なので取り敢えず、その中からセレクトすることにしました。

10月18日ダイコンの葉の表面に付いていたもので、日向ぼっこをしていたところをバッチリ「ナナホシテントウ」ですよ。



余談ですが、11月20日曇る寒空ながら、県立近代美術館へ



「日本画の時代」の鑑賞に行き館内から見た池の周囲のもみじの色がすばらしく、暖かい晴天の26日デジカメを携え風景を撮影、たまたま木に止まっていたナミテントウムシを見つけ、ティッシュに包んで持ち帰り、翌日拵げてみたら固まって動かなかったのでそのまま机の上に置き約2時間後に見ると姿なし!生きていたか!?...というわけで証拠写真はありません。

テントウムシに関する Q & A

Q : 半球形で地球儀の半面に似ているので、天道虫というのでしょうか。英語名 Lady bug は、無害で身近な光沢のある甲虫として親しまれているのでしょうか。

(京 美季男)

A :

- ・ テントウは、お天道様の”天道”で、太陽の意味。指や棒の先にとまらせると、どんどん太陽のほうへ登っていくため”太陽の虫”すなわち”天道虫”の名がついたと言われています。

- ・ Ladybird の語源については、「テントウムシの調べ方」(日本環境動物昆虫学会編、桜谷・初宿監修、文教出版、2009)に詳しく書かれています。この本によりますと、英語名 Ladybird(Ladybug, Ladycow と呼ばれる)の Lady は Our Lady つまり聖母マリアを表し、「聖母マリアの鳥」ということとなります。このように欧米でテントウムシが神聖視されているのには、2つの理由があると考えられています。

第一の理由は、Ladybird の語源が「害虫を食べて Our Lady に仕える」意とされるように、多くの種類がアブラムシを捕食するという食性が人間にとって役に立つからというものです。

第二の理由は、西洋では「赤」は魔女や悪魔から身を守ってくれるなど宗教的に特別な意味を持つ色であり、古い絵画では聖母マリアが赤い外套をまとった姿で描かれていることから、赤い体色が神やマリアを連想させるからというものです。

(琵琶湖博物館 専門学芸員:八尋 克郎)



捕まえたらタイガーサラマンダーだった

東近江市 池之内 陽多

今年は寅年で、虎と言う名前が付く生物が琵琶湖博物館で、展示されているという言う新聞記事を見て、1月27日に琵琶湖博物館に行った。昆虫、鳥と他にタイガーサラマンダーの写真が展示されていてびっくりしました。タイガーサラマンダーは黒茶地に黄色い横縞が入っている山椒魚の仲間です。

今から25～26年前の確か秋だったと思う、日が暮れようとする頃、我が家の玄関先の石段に、30cm程度の大きい色の付いたトカゲのような生き物がいるのを、来客の友人が帰り際に見つけたのです。

その友人がゴミを拾う挟みで捕まえて、家にあった海苔が入っていたガラス瓶に入れ、上にガーゼを被せて生け捕りが出来た。

友人が八日市南高等学校に珍しい生き物に詳しい先生がおられるから明日にでも持っていけばと言う事でその日は無事一件落着きました。

翌日、海苔のガラス瓶に入れられた生き物を持って、先生を尋ねて見てもらい先生も分からず、図書室から生物図鑑を持ってこられて調べたところ、アメリカ原産の「タイガーサラマンダー」と判明しました。なぜ、この様な生き物がここにいるのか見当がつかず、おそらくペットとして飼っている家から逃げたのか、または、飼育放棄で捨てられたのではないかと話された。

我が家では飼育することが出来ないので、先生に相談したところ、「大津の文化館に持っていったらどうだろう」と言う事で、家内と私の父親とが文化館に持って行って無事に引き取って頂く事が出来ました。その頃、私は石山の某繊維会社に勤務していましたが、文化館まで面会に行く時間が無く出会う事が出来ませんでした。

その後、文化館の展示物、資料などが琵琶湖博物館に移管されたという記事を読み、あのタイガーサラマンダーはどうしているかなと思っていました。

過日、琵琶湖博物館で展示されているタイガーサラマンダーの写真を見て、当時の大騒動が懐かしく思い出されました。なお、琵琶湖博物館の担当されていた方から当タイガーサラマンダーは十数年前に天国(アメリカ?)に旅立ったことを聞く事が出来た。

表題【春はもうすぐ、タンポポ調査・西日本2010が始まります！】

投稿日【2010年2月12日】

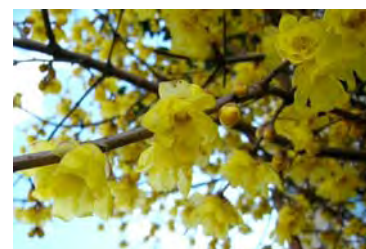
草津市 梶島昭紘

今年の大寒の頃は寒くない日がありましたが、その後、雪が降ったりして、まだまだ風は冷たい。でも外に出て、早春に咲く黄色の花を見つけるのが楽しみです。守山市のなぎさ公園のカンザキハナナの黄色が目につく。



旧草津川、金勝川の周辺を散歩しながら草木の様子を見るのを楽しみにしています。川の土手で日が差す場所には水仙があちこちに花をつけていて、まだ風は冷たいですが花を見ながら歩くと暖かい気持ちになります。

一月末、草津市内を歩いていると、どこからともなく“甘い香り”がしてきて、それに誘われて足を向けると、庭木として植えられている蠟梅が八分咲きになっていました。花は下向きに、花の中心まで黄色に彩られ、枝の先まで多くの花をつけていました。ソシンロウバイのようです。ヒヨドリが花をつつくのも時々みかけます。



2月草津市内に雪が降った翌日、金勝川に沿った田圃（栗東市の岡の地山古墳の近く）の畔を見ながら散歩しました。良く見ると、回りの雪をよけてタンポポが葉の中心から、5センチ位のしっかりとした花茎を伸ばして咲いていましたし、回りを探すとこちらのタンポポは赤いロゼット葉の中心から地に這うようにして花が咲いていました。タンポポから“気”をもらいました。横にはタネツケバナの小さな白花や、オオイヌノフグリの青花も見られます。旧草津川の梅の花はまだ蕾が膨らんだ状態ですが、野の草は日だまりで花を咲かせていました。

さて、タンポポ調査・西日本2010が3月1日から開始です。タンポポは外が寒くても日だまりでは、もう花を咲かせて皆さんを待っています。

戸外に出て身の回りのタンポポを観察して、調査に参加してみましよう。

（詳しくは琵琶湖博物館内、タンポポ調査・西日本2010・滋賀県実行委員会まで）



回りに雪が残るのに咲いていた



ロゼット葉の中心から花が

滋賀県のタンポポ調査 2010・西日本・予備調査結果

布谷知夫(琵琶湖博物館特別研究員)

1 滋賀県のタンポポ調査

滋賀県では県立琵琶湖博物館の開館準備期間中に、滋賀県内の住民参加型調査の一つの例として1993年に全県調査を行った。これ以前には滋賀県植物同好会の調査や学区での調査例はあったが、全県を対象にした調査はこれが初めてであった。1993年調査ではおよそ6000か所のデータが集まった。そして5年後の1998年に2回目の調査を行い、2003年の3回目の準備に入っていた。その当時、大阪自然環境保全協会では5年ごとに行っていたタンポポ調査について、雑種の出現によってどのような意味があるのかなどについて議論が行われており、布谷もその議論に参加した。大阪での2000年の調査の際の認識では、雑種はあるが、外来種とほぼ同じ生態をしているので、在来種を確実に区別すれば調査はできる、ということになって実施されたが、そのころから雑種の研究が進み、考えていた以上に複雑であることがわかってきた。そのため、大阪の2005年の調査は、雑種を区別して行い、同時に関西全体で調査を行うことを決め、滋賀県の調査も2003年は取りやめて、合流して2005年に行うことにした。

表1 1993・98年の結果数(比率はシロバナをのぞく)

	在来種	外来種	シロバナ	合計
1993年	3240(56.1%)	2531(43.9%)	534	6305
1998年	1733(51.7%)	1617(48.2%)	305	3655

表2 メッシュ数と比率

	在来種のみ	在来種が多い	外来種が多い	外来種のみ
1993年	433(40.4%)	299(27.9%)	150(14.0%)	190(17.7%)
1998年	227(34.3%)	68(10.6%)	189(28.6%)	177(26.8%)

在来種と外来種との比率、あるいはメッシュあたりでどちらが多いかという点においても、在来種が減少しており、特に出現(調査)メッシュでの在来種の減少は目立つ。

2 2009年の予備調査の経過など

2009年の予備調査では、外部の団体等には声をかけず、琵琶湖博物館の「はしかけ」、フィールドレポーター、そして滋賀県の「環境と科学のフェスティバル」に参加していた滋賀県内の自然系の展示を持つ博物館施設に声をかけて調査を行った。これらの博物館に対しては、事前のイベントの相談の際に調査への協力をお願いし、3月ごろに改めて依頼の手紙とその施設の規模に応じて、調査用紙を郵送して、館内などに用紙を置いて協力をしていただいた。このうち二つの施設においては、タンポポの観察会を行っていただいた。

琵琶湖博物館では事前のタンポポ調査勉強会を1回行い、「はしかけ」とフィールドレポーターの定期発送物に加えて、調査用紙などを郵送していただいた。

調査手順は、届いた封筒をできるだけすぐに開き、データ用紙、花、瘦果と分けてデータ等に矛盾がないかを確認し、花は別の封筒に入れ、瘦果は小袋に、個袋に入っていない場合には別の封筒などに入れなおして、それぞれに同じ番号を与えた。そして花とデータの確認、外来種の場合には瘦果の色を確認して、瘦果はまとめて冷蔵庫(実際には低温収蔵庫)へ納め、データをエクセルに入力していった。後に花を取り出して花粉をすべて確認し、そのデータを後にエクセル表に書き

込んでデータを一つにした。

2009 年予備調査での参加者数は、およそ 50 名、有効であったタンポポの数は 924 であった。そのうち 1 人で一番多くの地点からのタンポポを調査してくださった方は、200 を超えており、100 台の後半の数であった方が 3 人おられるなど、特に多数の地点を調査してくださった方の上位 6 人で 800 に近づく数であった。

3 2009 年予備調査結果

滋賀県で送られてきたタンポポの種類は、在来 2 倍体のカンサイタンポポ、トウカイタンポポ、セイタカタンポポ、在来多倍数性のケンサキタンポポ、外来種であるセイヨウタンポポとアカミタンポポ、そしてシロバナ系のシロバナタンポポとキビシロタンポポである。このうちキビシロタンポポはこれまで滋賀県では分布しないと考えられてきたが、今回 2 個体が送られてきた。三重県ではかなり高い比率で分布しており、また京都府、兵庫県でも見つかっているため、今回は発見の可能性があると考えていた種である。

タンポポの総ほう外片の形体を 1 から 5 までに区別し、同時に花粉の有無と合わせて雑種の判断等を行った。今回の調査全体では雑種と外来種とをあわせて表現しているが、雑種がどの程度あるのかを確認するために、雑種と思える個体の数を出した。

総ほうの形体が 1 と 2 を形体上の在来種、3 と 4 を雑種、5 を形体上の外来種とし、形体上の在来種のうち花粉がバラバラあるいは無いものを雑種とした。また形体上の外来種については、2009 年のデータではセイヨウタンポポの 71.4%、アカミの 15.6%が雑種であるという結果であったため、この数字を使用して、形体上の外来種を計算した。結果は表 3 のとおりである。

2005 年の調査との比較では、数の上では雑種の比率が増えていることと、在来種・外来種ともにやや減少ということになった。また 1998 年当時にはすでに雑種が含まれていたと考えられるため、当時の在来種との単純な比較はできないが数字の上だけでは、ほぼ 10 年前と同じ程度の比率ということであった。

なお、1993 年の調査の際に展示用にタンポポのレプリカを作成したが、セイヨウタンポポのつもりで作成したものの総ほうの形は形体 4 程度のものであり、現在の知見であれば、明らかに雑種と考えられるものであった。当時は雑種が存在することなど考えもしなかったため、形体 4 であれば当然外来種(当時は帰化種)と考えた。思い込みからおこる観察不足の例である。レプリカの作成は実物を採集して、それを業者に渡して、その通りのものを作成するのである。

表 3 出現数と比率(比率はシロバナ系をのぞく)

	在来種	雑種	外来種	シロバナ系	合計
2004・5 年	559(37.4%)	843(56.5%)	89(6.0%)	223	1714
2009 年	283(33.7%)	492(58.4%)	62((7.9%)	85	924

4 本調査に向けての準備

予備調査ではおよそ 50 人程度の参加者であった。身近でお願いできる会だけに依頼して行ったため、規模を広げることはできなかった。2010 年の本調査では、より多くの方の参加をしてもらえるように、やや早くからの準備と滋賀県内の各地に調査用紙を置いていただき、参加者数を増やすことと、今回は報告がなかったメッシュからのデータを組織的に取ることを考えたい。

表 題[法の盲点み～つけた！]

投 稿 日[091208]

名 前[彦根市 加固啓英]

私は数年来子供達に見せる為に用水路からボウフラサイズの雑魚の稚魚を採取し、箱水田やガラス水槽で飼育し続けて降ります。水田の中干しの時に元の水系に放しますの
で、今手元にはその時見落としたウキゴリと思われる1匹のみです。

完全順法を志し、漁業法について彦根水産試験所に確認したところ「稚魚の捕獲、四手網の使用、就け塚(ペットボトルでの手製も含む)の何れも禁止」とのことで、来年以降の調達の目処が立たなくなりました。

そこで一考、推定のコカナダモなどの水草を多量に採取し、付着した卵から孵化させられないかと考えました。この寒空の下で古いセメントで作った為に水漏れの激しい池を拡大、補修、屋根からの天水の水量を増す為の配管工事に励んでいます。

学芸員の皆様、水草から魚卵を採取することは漁業法に抵触するでしょうか？ 産卵の時期は？

* 別件です。

私の前回の投稿[なんとも厄介！・・・]のレスポンスは「まあまあ面白かった」が100%だったので、又、続けさせて頂きます。

100%の内訳は「まあまあ・・・」が一件、これは私の知人から、他は0件でした。

表 題[なんとも厄介！生物学と和名(その2)]

投 稿 日[20091222]

名 前[彦根市 加固啓英]

私は少し前に脊柱管狭窄兼椎間板ヘルニア2個所の手術のリハビリ中に、今度はしつこい尿路結石の激痛で深夜に緊急通院、みじめな数ヶ月でした。やせ細った足腰の荒療治のリハビリを敢行、天候の許す限り毎早朝自転車30～45kmを目処にご近所を周遊、その途上で全く知らない方のお宅に飛び込みで、鈴生りに実っていた見慣れぬ果物を頂いて来ました。がこれは「カリン」とのこと。以上が、長～～～あいイントロ。

皆さんのお手元の国語辞典、漢字辞典、百科辞典、植物図鑑、等、なるべく多くの書籍で「カリン」を引いてみて下さい。多分ボケ属トマルメロ属の全く異なる2種類の記述に出会うと思います。頂いて来たのは直径75mmほどのレモンの様な青味のある黄緑で非常に硬く「細胞壁の塊」といった感じで鉄鋸で切ったところ中からウメやモモに似た種子様の物が現れました。中に胚乳があるのかと思いこじ開けてみると中から20粒程の小さな種子が出てきました。これは多分ボケ属の方でしょう。

この様に和名を管理する団体が無い、又は小さなグループ内だけで取り決めている為この様な事になるらしいのです。

やはり動物界・植物界・菌界、等の五界毎にタイプサンプルと照合出来る真の標準和名にすべきだと思います。不特定多数の人・日時・場所・対象物、を目撃しただけで、手に取ることもなく、同一物の確証もなく、日常用語で付けられた地方毎に異なる呼び名の一つ

が和名とされる場合が多いのも混乱の元に思われます。

前世紀末、定年退職を前に、会社出入りの書店に「生物学辞典(岩波書店)」と「羅和辞典(研究社)」を注文しましたが「羅和辞典」の方が手配が付かず、退職後も近所の書店に発注しましたが、入手までに数年を要しました。その間、彦根市立図書館に行き「普通は貸し出さないのだが」の断り付きの、多分初版、明治・大正を感じさせる一冊を貸して頂きました。(ややっこしい話、羅和辞典の「羅」はローマ(羅馬)でなくラテン(羅てん:「てん」は漢字変換不能)

これで樹木の学名から属名を引くと、一つの単語に御寿司屋さんの湯呑に並ぶ魚の漢字名の魚偏を木編に変えた様な、読み方も分からない画数の多い文字が5~6個、それを漢詩・漢文対応の漢和辞書で調べると、一つの文字が数種類の植物の意味に・・・

以下に奇異に感じたり不便、不合理に思われる生き物に関する言葉を上げます。

1. 樹種名の末尾の「～ノキ」

数年前、ドングリの実る木の調査の折、文章を書くに当たり樹木の名の末尾に「～ノキ」を付けるべきかどうかに迷い、私の手元の5冊程の1冊にでも有ったら「～ノキ」を付けようと思い、調べて付けない事とした文書の投函直前に友人が来て「長らく借りていて御免」と返しに来た私の本に「～ノキ」の記載が有るのには参りました。琵琶湖博物館の樹木の名札には「クスノキ」「カキノキ」等、「～ノキ」付きが多い様に見受けられます。ややっこしい事に漢字の「楠」は「クス」とも「クスノキ」とも読め、考えだすと終始が付きません。

2. 地方名が沢山有り、その中の一つを誰かが、地域とのコンセンサスなく和名とする事も問題です。 詩歌の都鳥(ユリカモメ)と和名の「ミヤコドリ」や声の仏法僧(ブッポウソウ)と姿の仏法僧(ヤイロチョウ)の様な例は他にも有ると思います。

3. 故意に名前が乱造される。

大陸棚の魚が乱獲され、深海性の魚が食卓に上がる昨今、光の届かない深海の赤い魚をやたらに「××ダイ」と云う様に高級魚に似た名前を付ける。

釣り師が得意げに仲間用語の呼び名を付け、地域で異なる出世魚の呼び名となっている。

4. ダイサギ(鳥類)が

何も奇異に感じないでしょうか? 大きさの異なる数種の近似種がある時、その内の大きな物に「オオ××」でなく「ダイ××」の付けられた種を他に知りません。 図鑑等の索引で調べて見て下さい。

5. アライグマ(?日本のオリジナル発想の命名か)

物を洗う習性からのこの命名の例は、少なくともシートン時代(19世紀的から20世紀当初)のアメリカには全く見当たらない。「シートンの動物記(紀伊国屋書店・今泉吉晴[監・訳])」には英名・殖民地人による呼称・ネイティブの各種族の名前が9通り記載されているが、洗う習性との関連説明は無い。

* まだまだ云いたい事が有ります。不要と思いましたらレッドカードかストップのタオルを投げて下さい。

紀行 「ガリ版伝承館」を訪ねて

大津市 多胡 好武

「ガリ版」という印刷器材は昭和の時代に学んだ方なら、誰もがご存知だと思います。学校でのテストや連絡、文集作りなど印刷された用紙は、ほとんどがガリ版刷りでした。

毛筆が主流の時代から明治の中頃、大量に同じ文章を簡易に印刷する印刷機を研究、考案したのが現在の東近江市蒲生岡本町出身の近江商人堀井新治郎、二代目新治郎父子です。

明治 27 年大量、簡単に印刷できる印刷機の「ガリ版」こと「謄写版」が発明され、印刷手段の一大革命となり、大学や商社、官庁、新聞、通信社が率先して活用したとのこと。

昭和 62 年謄写版生産は中止されました。パソコンやプリンターの廉価で性能のよい文書作成能力、フルカラーの印刷は、鉄筆で油紙の原紙との格闘、インクを手につけながらの印刷と、現在の便利さを享受する者には敬遠されるのでしょうか。



《明治 26 年研究段階の謄写版》



「ガリ版伝承館」は堀井父子の住まいした堀井本家に開館され（御代参街道岡本宿）、土曜、日曜の 10:00～16:00 開館で料金無料です。

見学した時間が遅く、体験学習は叶わず残念でしたが、鉄筆で油紙に文字を書き、インクをのせて印刷するまでの一連の作業が体験できます。

ガリ版を懐かしく思う方や、ガリ版を知らない世代の方々には 100 年近く簡易印刷の主流であったガリ版（謄写版）の実力、魅力を十分に味わえると思います。



(写真上は大正末期の謄写版の説明書きですが、昭和 30 年代も同じような謄写版を使っていたように思います。学校など大量に印刷する場合は輪転機も使用されていました。)



(左写真は原稿作成の道具、油紙や鉄筆など。見覚えありますか?)

ガリ版といえば、手を青黒く汚しながら、独特のインクの匂いの中、卒業文集を刷り上げたものです。

発明されたのは西洋とばかり思っていました、まさか文明開化の明治時代に日本人(近江商人)の発明とは!

今、近江商人の「三方良し」が言われていますが、堀井父子の発明登録は 550 件にもおよび、その社会貢献ははかり知れないのではと思います。

「ガリ版伝承館」では浮世絵のような多色刷りで、これがガリ版か!!と見間違ふカラフルな作品が展示されています。ぜひ機会があれば訪ねてみてください。

メジロが知らせてくれた

FRS おおなまけ

わが家には、盛大に花をつける山茶花がある。この樹齢は 40 年くらいだろうか、毎年、10 月末ころから翌 3 月末まで、遠くから初めて見た人が、季節はずれの満開の桜と見まがうほどの、ピンク色の花をつける樹だ。

このピンクの花が咲くと、メジロが好んでやって来て、せわしなく動き、蜜を吸っているのか、なにかを啄ばんでいるのか、彼等はひと時として止まることがない。

初めて彼等に気がついたのは、琵琶湖博物館で自然観察の楽しさを教えられた、10 年位前の 2 月中旬だった。ウグイスが来た！と早合点して、その鳴きを心待ちにしていた。薄いグリーン色の躰から、てっきりウグイスと思い込んでしまい、図鑑で調べてメジロと判り、がっかりしたことを覚えている。

そう言えば、目のくっきりした白い輪が特徴だし、ウグイスより羽根色の彩度が高く、よく見ればウグイスとは違いが判るのに、早合点して、ウグイスと思い込んだのは、見た時期が早春だったことが大きい要因だったと思う。

そのメジロを、いつか写真に思うようになったのは、博物館の活動に参加するようになり、記録の重要性を知ってデジカメを買ってからだ。

わが家の山茶花のピンク色の季節は長く、約半年ちかく咲き続ける。茶花にもされる花なのに、わが家の樹にはそんな風情はさらさらなく、あまりに仰々しい盛花の長丁場に、花としての魅力を感じなく、楚々とした風情を求めたりしていた。それが、メジロの写真を撮らせてもらう、専用のピンク・スタジオなのだと、山茶花への思いが変わった。

メジロは、晴天の午前中に来ることが多いようで、遅い寝起きの洗面所から、彼等の行動を観察するのが愉みとなった。写真を撮るには、対象が静止してくれないと私の腕では無理なので、彼等の動きの止まるのを待つのだが、彼等の習性か、一刻も動きを止めない。山茶花の枝を脚で掴むが、躯体は絶えず動き、嘴はそれ以上に素早く活動し続けている。それで、ピンクの花弁の中で、白い輪が目立つ薄グリーンの躰は、まだ記録できていない。

昨年、このピンクの花は、やや遅い開花で 11 月中旬だった、咲き始めはたいてい南面下側の枝からであり、咲き終わりも昨年はこの辺りが最後だった。盛大な花姿が見られるのは、厳寒期を迎える正月以降のこれからで、早咲きの桜の満開を見る思いで見ている。

その樹に、今年になってメジロの姿を見なくなった。彼等も正月休みか？年末はどうだったか？記憶にないということは彼等を見ていないのだ。薄グリーンの姿態が、ピンクの花弁の中でせわしなく動くのを待つ日が、正月から続いていた。

そして数日前、ふとそのピンクの量の少ないことに気づいた。よく見ると、これまでの半分以下、いや 1/4 しか花が付いてないのだ。本来ならそろそろ満開近くなる頃なのに、茶色に萎れた花弁が枝先を占有して、新しい花は数少なく、葉の影にひそんでいる。

これはどうしたことか、メジロの姿をばかりを求めていたが、メジロは、山茶花の変化を知って、来なくなっているのだろうか。毎日メジロの姿を求めていたのに、山茶花の異変には、全く気づかなかった己を恥じた。

あれほどの花を見せた山茶花の花が、なぜ今季は少ないのか、不思議でならない。わが家の山茶花になにが起こっているのだろうか。

その異変を、メジロによって知らされ、小鳥の賢明な選択を見た思いでいる。

フィールド・レポーター03月～04月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。

なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

	日 時	内 容	場 所
03月	6日(土)10:30～14:00	定例会	博物館交流室
	20日(土)10:30～14:00	定例会	博物館交流室
04月	3日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
	17日(土)10:30～14:00	定例会	博物館交流室

(おことわり;上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

編集後記&お知らせ

2月3日の節分に、草津市の立木神社にお参りしました。午前中から夜まで3回の豆まき(餅、福銭まき)、福くじも準備されていまし。また、お神酒、甘酒のご奉仕もあり、多くの人で賑わっておりました。新酒のお神酒をごちそうになり、夕方6時の豆(餅、福銭)まきに参加しました。時間前になると人が増え、厄年の善男、巫女、神職の方が撒いた餅、福銭に人が殺到して圧倒されながら、福銭を頂きました。和気あいあいとした雰囲気を楽しんだ日でした。

さて、冬の調査の「近江ことば いまむかし」調べには多くの皆さんのご協力を得られ、中間報告の通り、いままでデータの少なかった湖西、湖東、から多くいただきスタッフ一同喜んでおります。きっと良い成果が得られるのでは無いかと期待しております。また、調査票の返信と一緒に、フィールドレポーターへの入会申し込みも来ています。ご協力いただきました皆さんに感謝しております。

(文担当 スタッフ 椛島)



滋賀県立
琵琶湖博物館
交流センター

〒525-0001 草津市下物1091
TEL 077-568-4811 (代) FAX 077-568-4850
E-mail: freporter@lbn.go.jp